

5713

2016年度第二四半期決算 経営戦略進捗状況説明会

2016年11月17日



住友金属鉱山株式会社

代表取締役社長 中里佳明

SUMITOMO METAL MINING CO., LTD.

I . 経営課題・将来市場への対応

I

経営課題・将来市場への対応

II

業績推移・資産内容

III

15中計戦略の進捗と推進

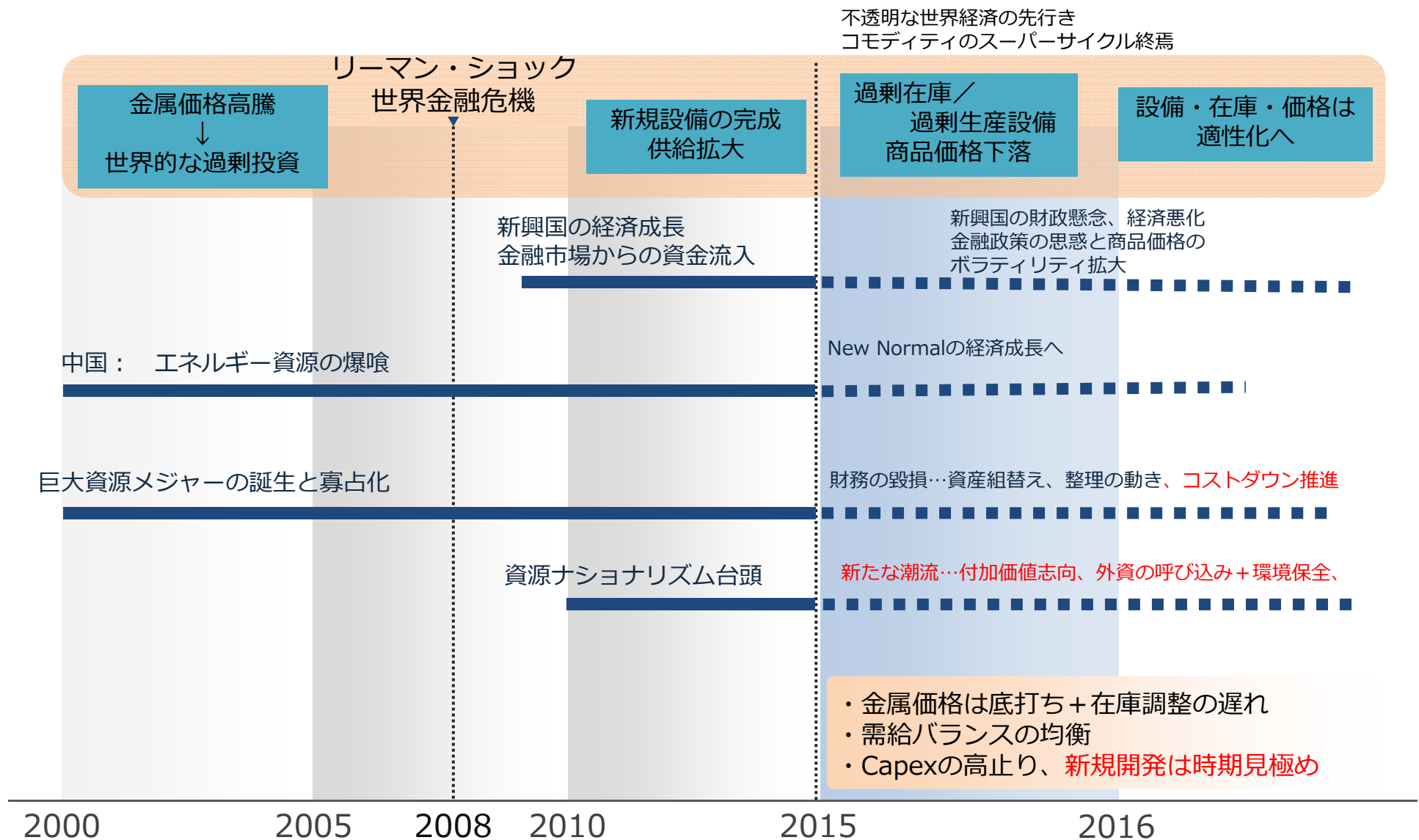
IV

事業を取り巻く環境

V

業績ハイライト/資料編

1) 当社を取り巻く事業環境



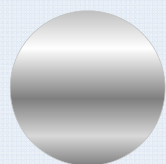
2) 長期ビジョン

世界の非鉄リーダー & 日本のエクセレントカンパニーをめざす

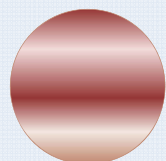
ターゲット

世界の非鉄リーダー

2021年度



ニッケル
15万トン



銅権益
30万トン



金
30トン



新規材料
経常利益50億円

日本のエクセレントカンパニー

売上高 1兆円

※当期純利益 1,000億円
(経常利益 1,500億円)



- ・ 長期ビジョンの実現に向けて着実に成長
- ・ 外部環境の変化を踏まえた戦略の練り直し

本社ビルエントランス
モレンシー銅鉱山の権益追加取得を記念して
Freeport-McMoRan社より寄贈されたモニュメント

※「親会社株主に帰属する当期純利益」

3) 15中計最重点事項

資源・製錬 金属市況は調整局面→各社ともコストダウンと生産性向上に注力
材料事業 成長領域・市場への積極投資
電池 1,850 t /月→2017年度には3,550 t /月体制へ更なる増強
結晶 300千枚/月→2017年度400千枚/月体制の確実な実施
リードフレーム 事業譲渡・撤退を決定

資源事業

- ・シエラゴルダ銅鉱山のフル生産
- ・新規金鉱山権益の獲得

製錬事業

- ・タガニートHPALの拡張
- ・HPALの周辺技術で成長戦略を展開
- ・銅製錬事業の競争力強化

材料事業

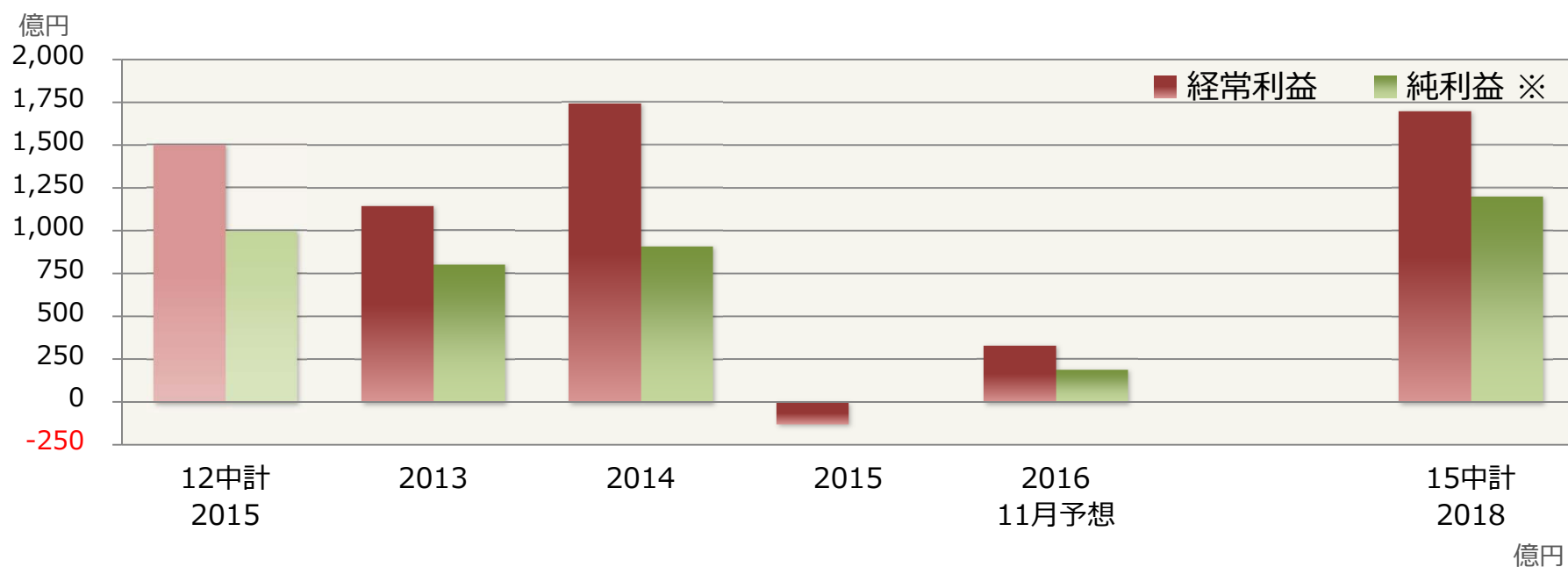
- ・電池材料、LT/LN増産の収益貢献
- ・持続的な次世代商品の創生・移行

研究・開発

- ・新商品とプロセス開発

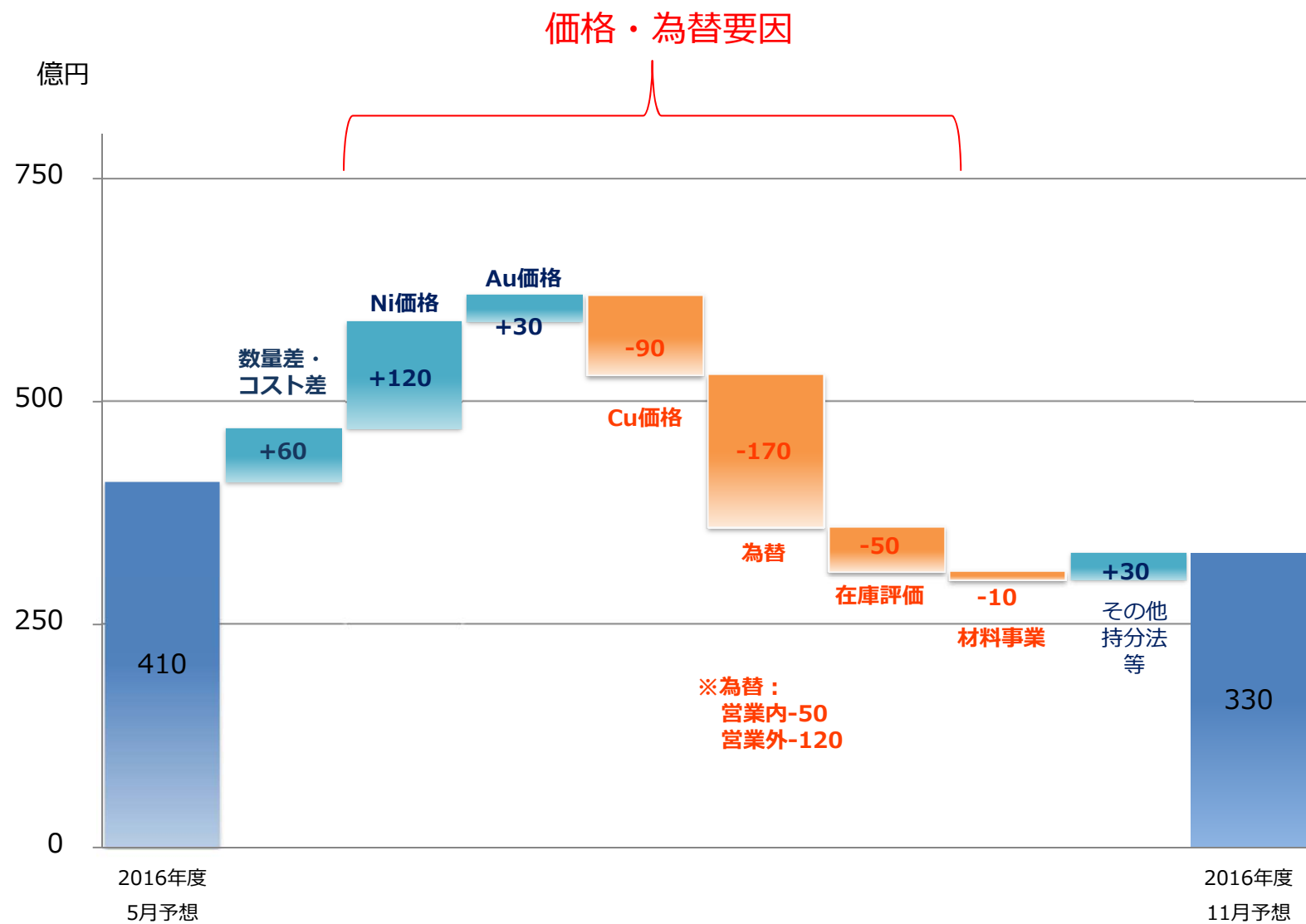
2016年度は
低金属価格下での利益確保に注力

4) 経常損益推移



	12中計 2015	2013	2014	2015	2016 5月予想	2016 11月予想	15中計 2018
経常損益 (億円)	1,500	1,144	1,742	-128	410	330	1,700
※ 親会社株主に帰属する 当期純損益(億円)	1,000	803	911	-3	230	190	1,200
Cu価格 (\$/T)	7,500	7,104	6,554	5,215	5,000	4,726	6,000
Ni価格 (\$/lb)	9.0	6.5	7.6	4.7	3.75	4.5	7.0
Au価格 (\$/Toz)	1,550	1,327	1,248	1,150	1,200	1,273	1,150
為替 レート(円/\$)	80.0	100.2	109.9	120.2	110.0	102.7	120.0

5) 経常利益分析 2016年度 11月予想vs5月予想



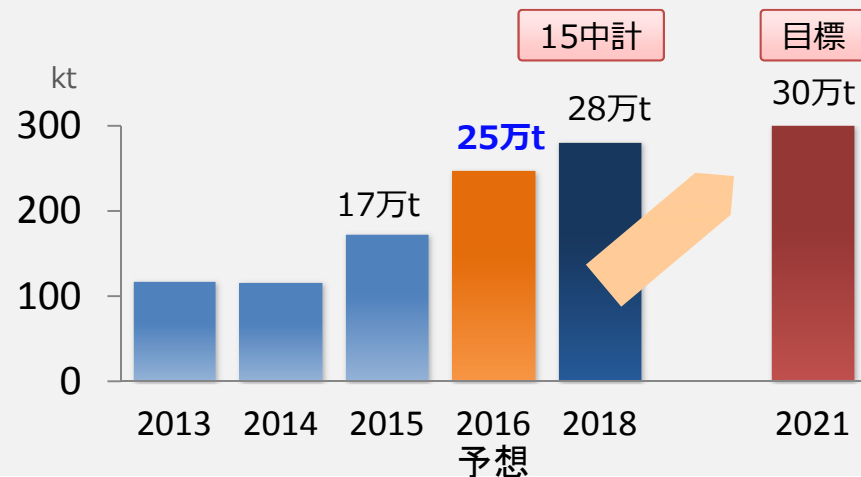
6) 15中計の主要プロジェクト

		プロジェクト名	2015年度	2016年度	2017年度以降
資源	Cu	Sierra Gorda鉱山	● 商業生産開始	● 11万t体制操業	● 第2期増産PJ
	Cu	Morenci鉱山	● 拡張フル生産開始	● 権益追加取得完了	
	Cu	Cerro Verde鉱山		● 拡張フル生産開始	
	Ni	Solomon			2018~ ● 出鉱検討
製錬	Ni	Taganito HPAL			2018 ● 3万6千t体制
	Ni	Pomalaa Project			● FS開始 ● 投資決定
	Ni	播磨事業所 硫酸ニッケル		● 第二系列完成	
材料	電池材料		● NCA 1,850t 体制		2018 ● NCA 3,550t 体制 ● 三元系 増産体制
	結晶材料 (LT/LN)		● 増産決定	● 30万枚 体制	2017 ● 40万枚 体制

7) 長期ビジョン達成状況

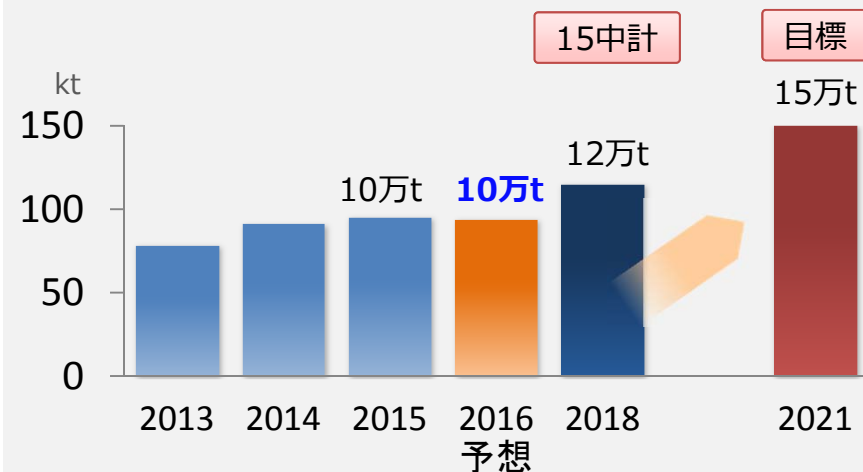
Cu

(鉱山権益分生産量)



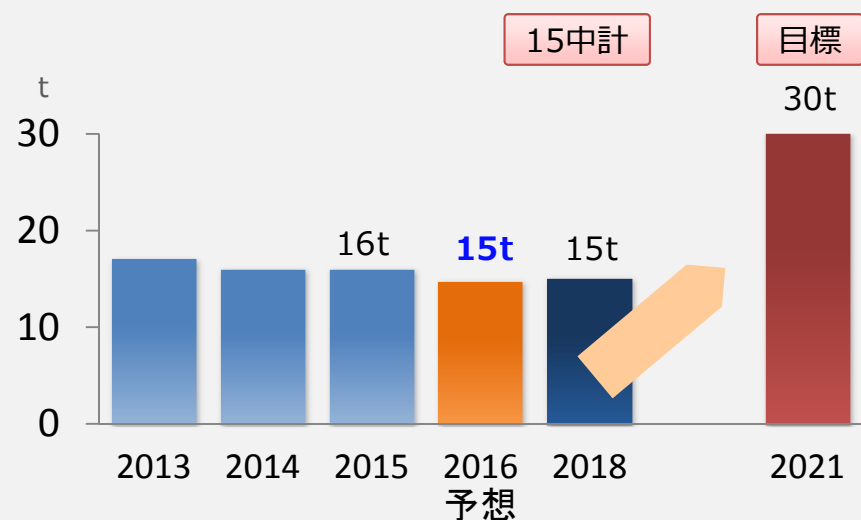
Ni

(年間生産能力)



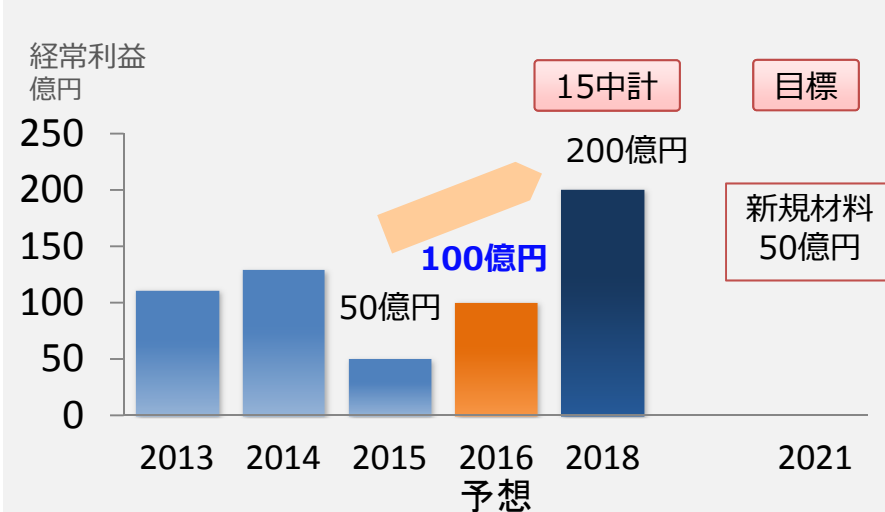
Au

(鉱山権益分生産量)



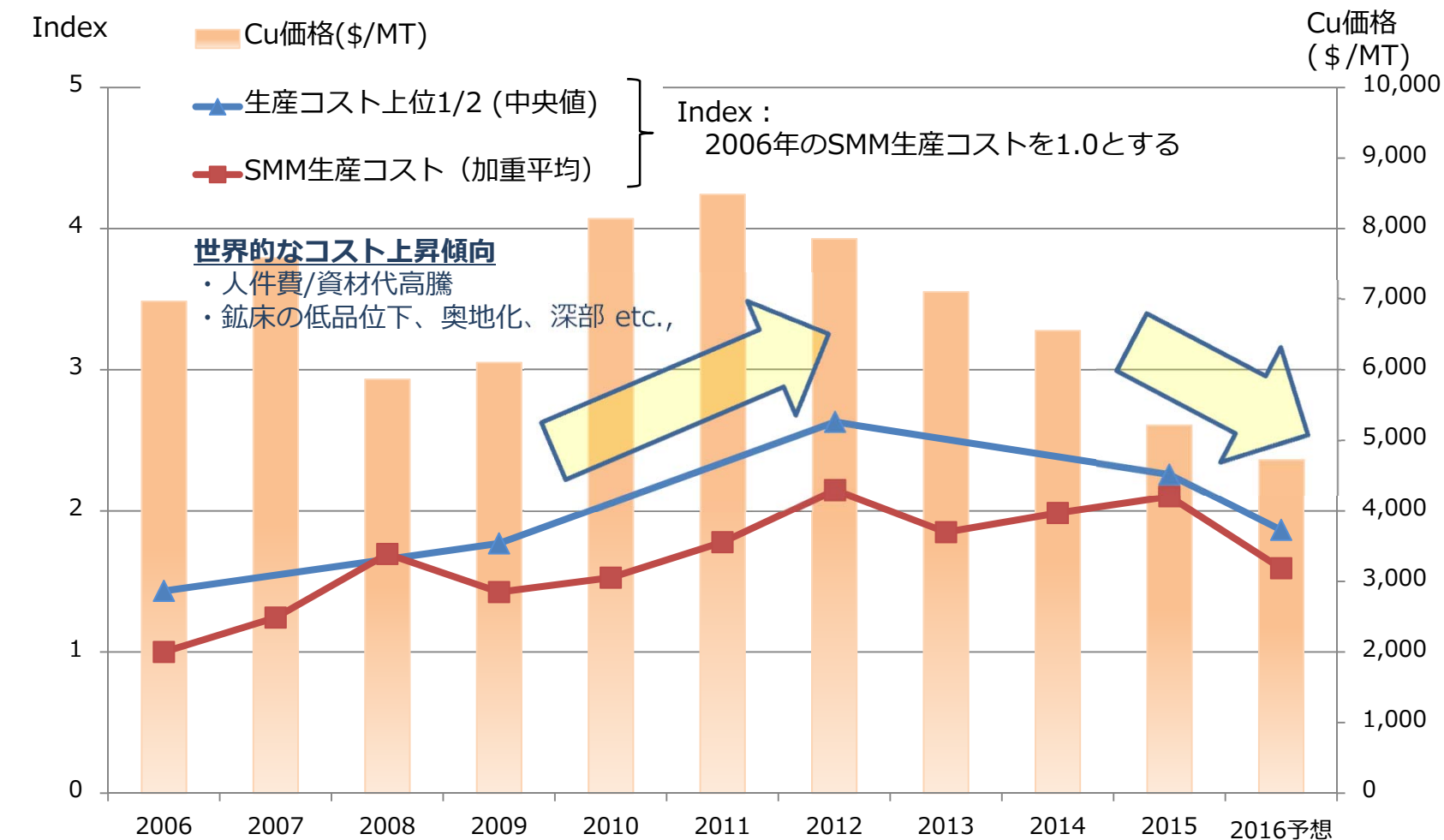
材料事業

(経常利益)



8) 将来市場への対応 ①資源 SMM海外銅鉱山のコスト推移

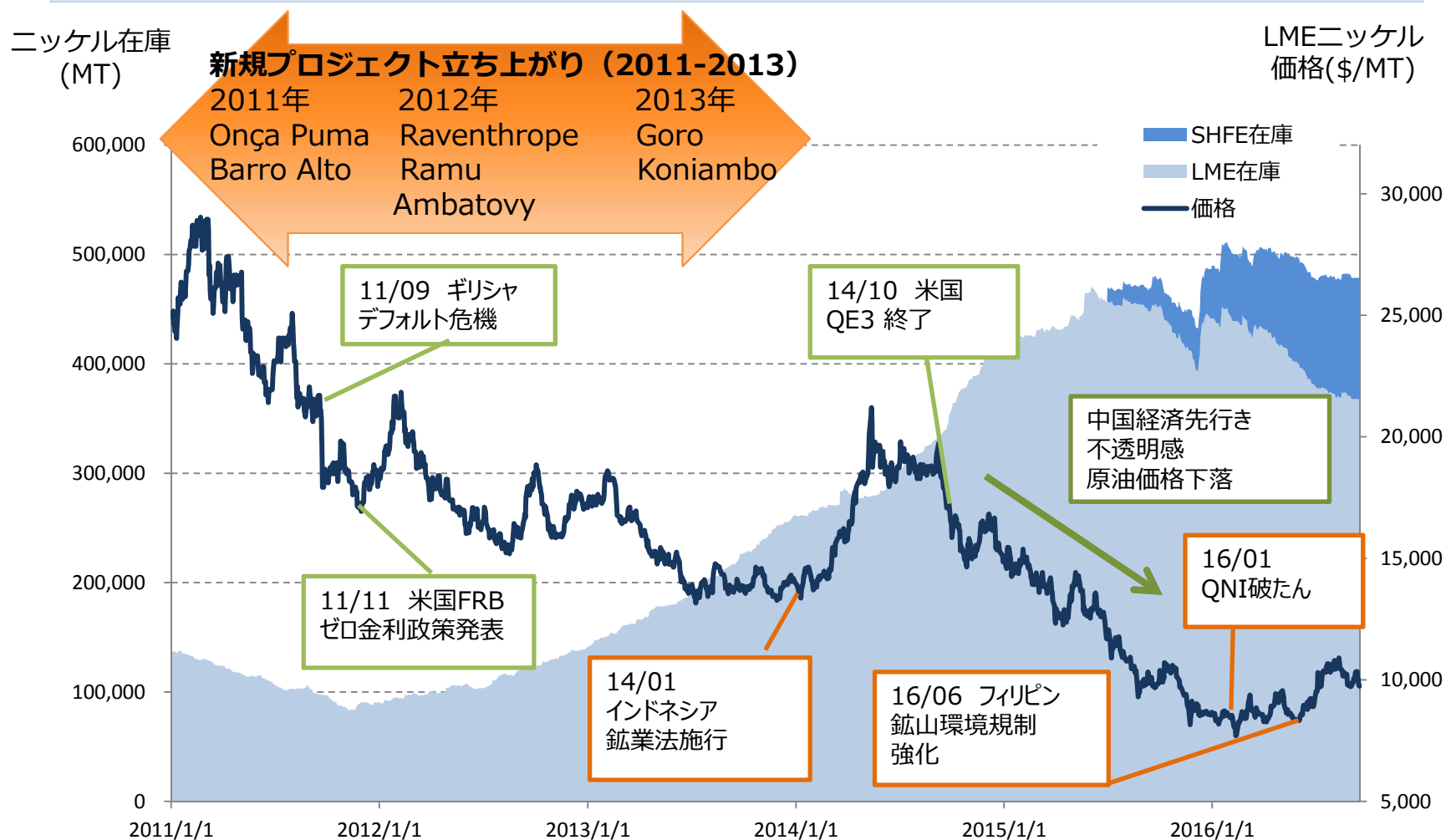
生産能力増強やコスト削減によりコスト競争力は上位2分の1以内を維持



(出典 : SMM)

9) 将来市場への対応 ②製錬 ニッケル市況を取り巻く環境

低調なニッケル価格が続く
フィリピンでの環境規制による供給市場の先行き不透明感



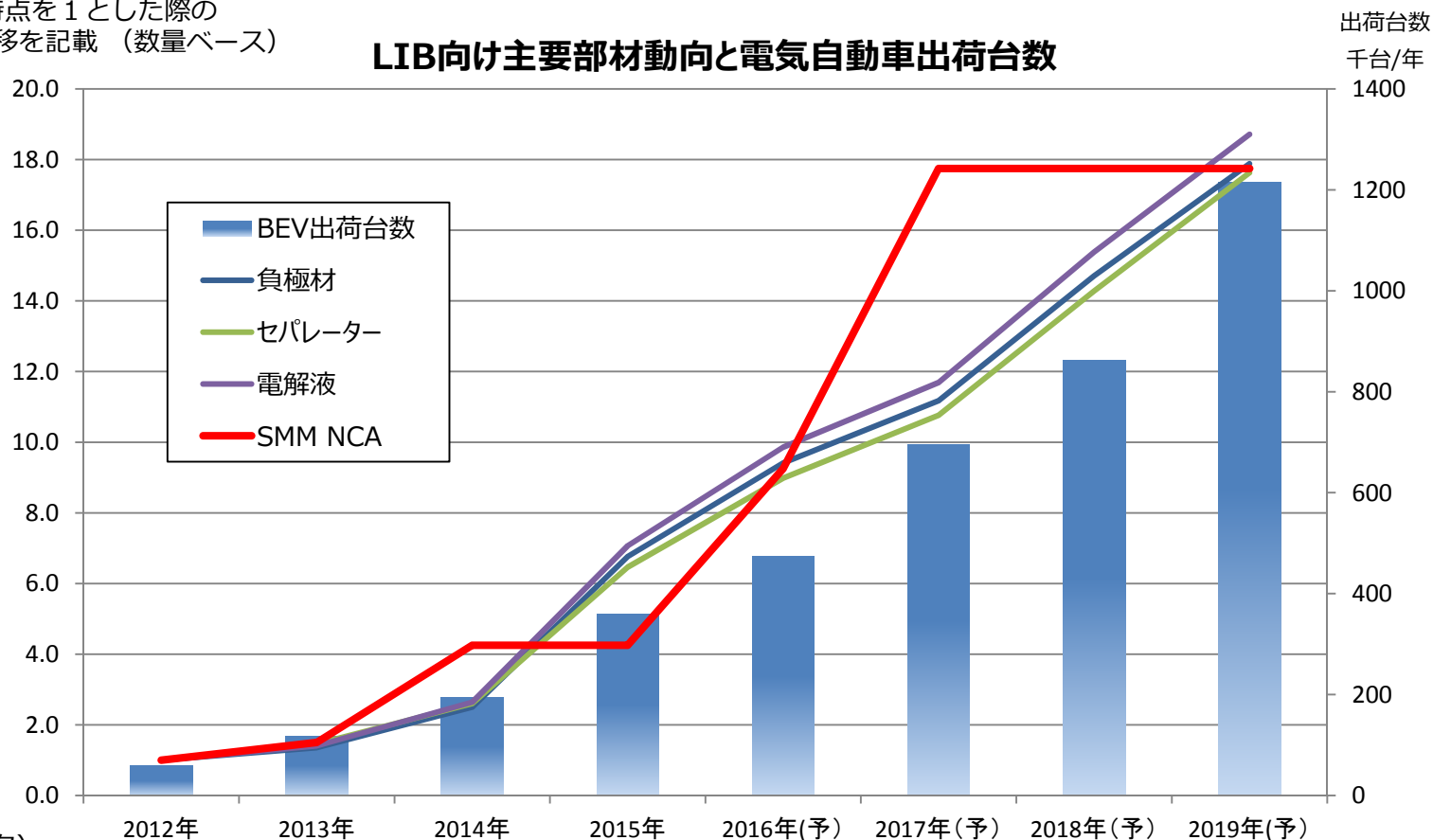
10) 将来市場への対応 ③材料 EV市場成長とNCA生産能力

将来の電気自動車全体の市場の拡大
当社はNCAの増産投資を推進

Index:

2012年時点を1とした際の
供給量推移を記載（数量ベース）

LIB向け主要部材動向と電気自動車出荷台数



(出典データ)

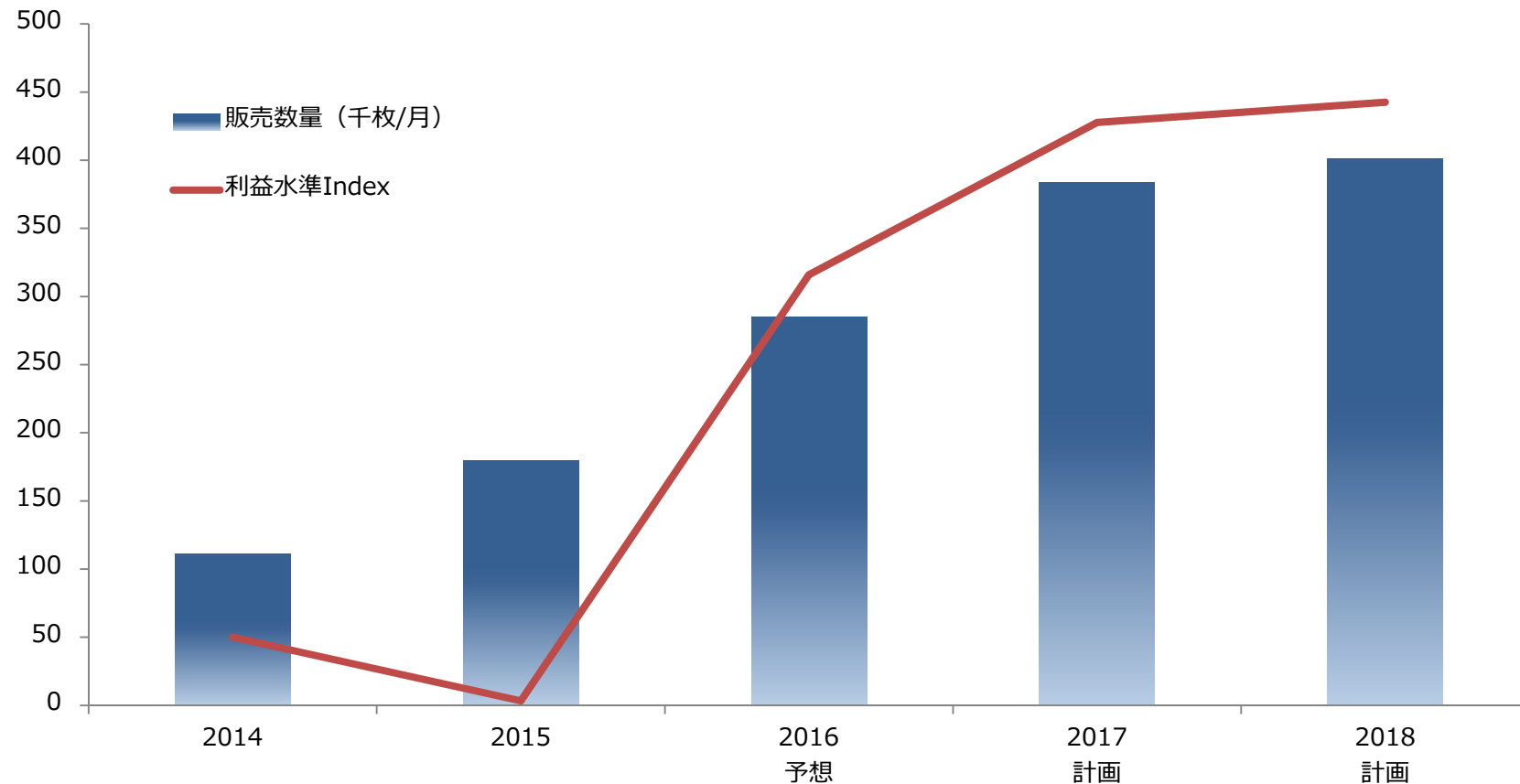
BEV出荷台数：B 3レポート 16Q2

主要部材動向：株式会社富士経済「2014～2016 電池関連市場実態総調査」を基に作成

11) 将来市場への対応 ④材料 LT/LN販売数量と利益推移

増産起業にあわせて販売数量も増加
材料事業の利益を支える製品に成長

販売数量
(千枚/月)



12) コーポレートガバナンス強化

コーポレートガバナンス体制

社外取締役の複数選任と構成比率の向上

(2015年～全取締役 8名中、独立社外取締役 2名体制 → 2016年～全取締役 8名中、独立社外取締役 3名体制へ)

2015年から役員の指名・報酬等に関する“ガバナンス委員会”を設置、運用の開始

〃 年から開始した取締役会の実効性評価とその結果を踏まえた運営改善へ取り組む

エンゲージメント

経営層による株主等との
エンゲージメント強化 (国内・外)

事業責任者による投資家等への
事業戦略説明を継続

非財務情報

統合報告書

(アニュアルレポート + CSR 報告書)

2016/10/ 1 日本語版 発行

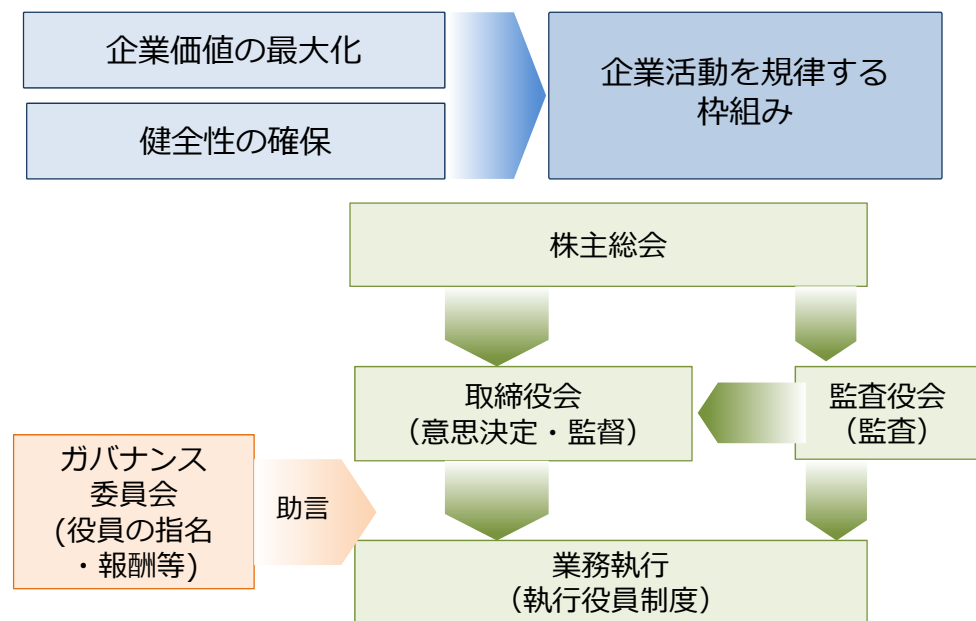
2016/11/11 英語版 発行

会計基準

国際財務報告基準 (I F R S)

2018年度～ 導入開始予定

当社のコーポレートガバナンス体制



取締役会の社外取締役比率を1/3以上とし
コーポレートガバナンスを強化

Ⅱ.業績推移・資産内容

I

経営課題・将来市場への対応

Ⅱ

業績推移・資産内容

Ⅲ

15中計戦略の進捗と推進

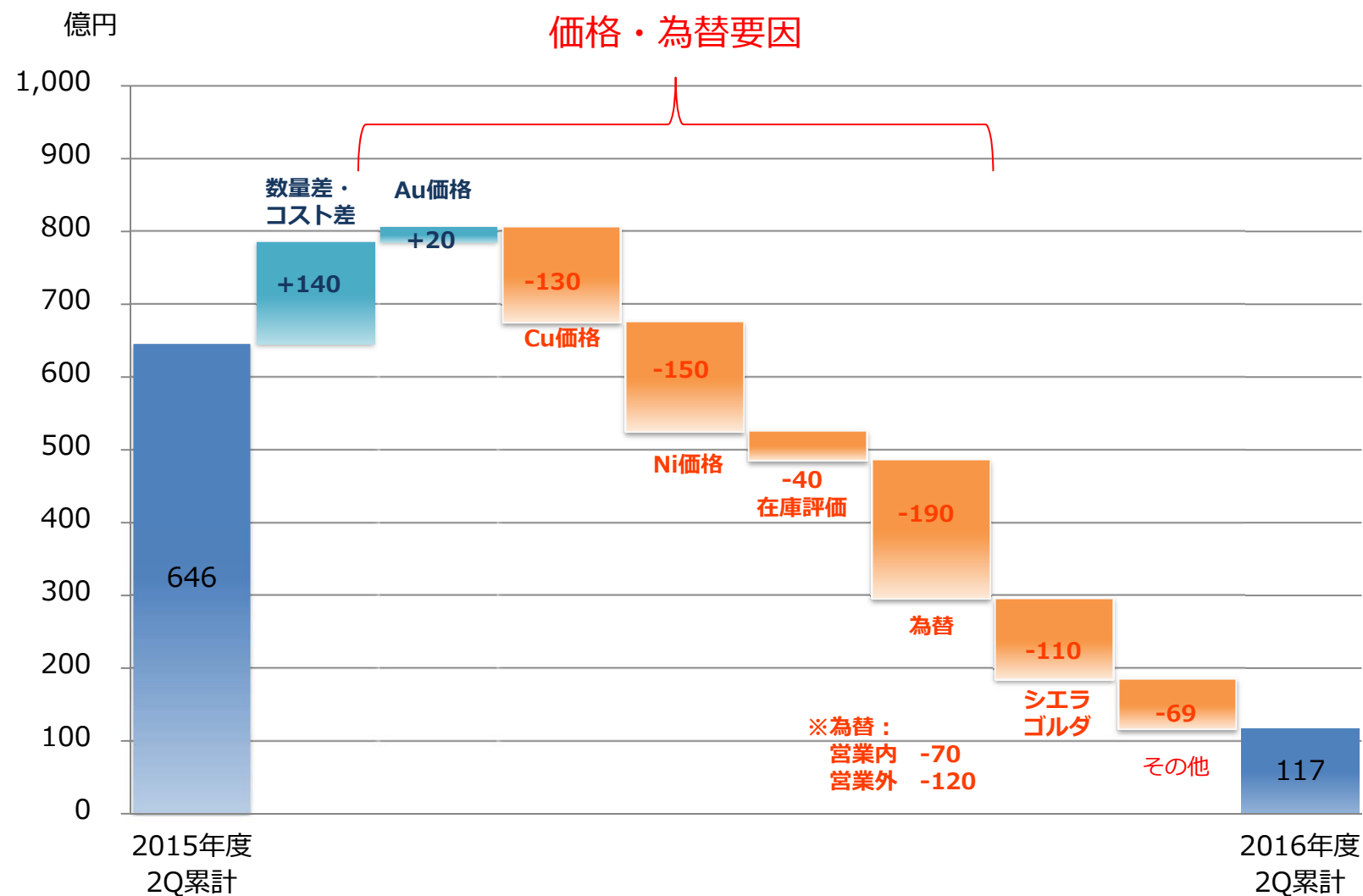
Ⅳ

事業を取り巻く環境

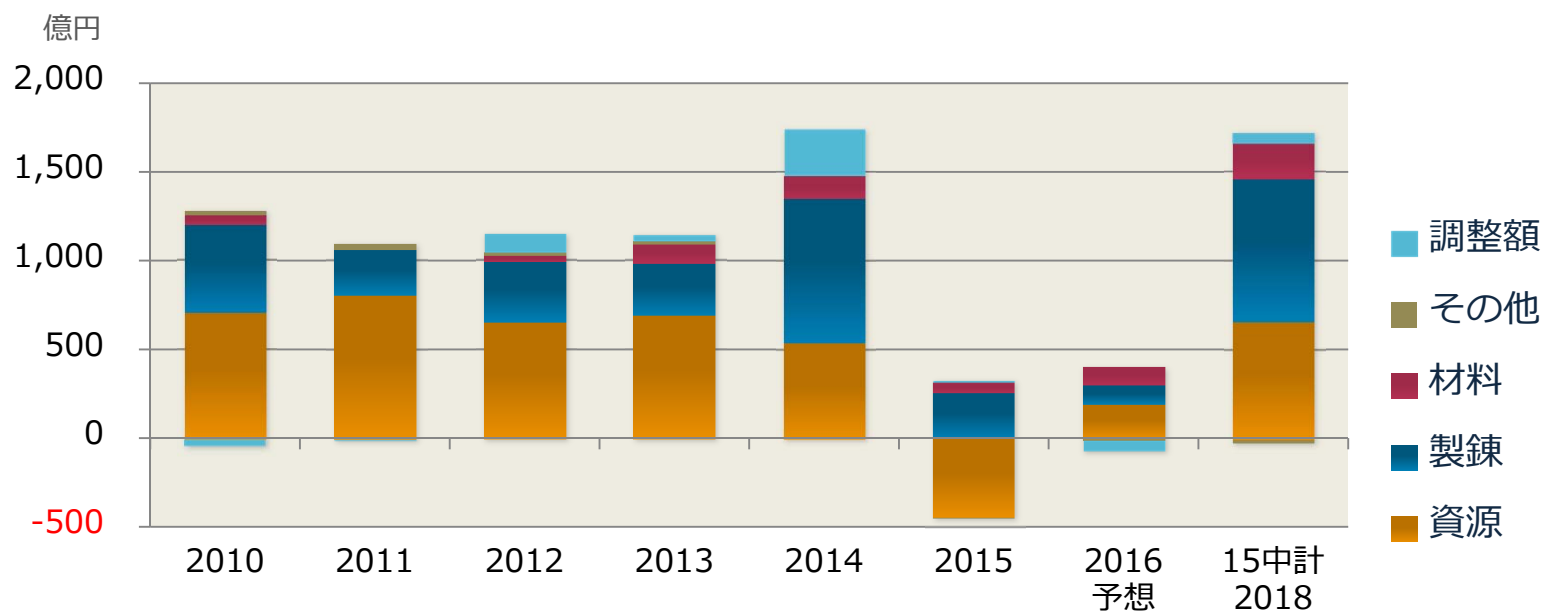
V

業績ハイライト/資料編

1) 経常利益分析 2016年度2Q累計 実績vs 2015年度2Q累計実績



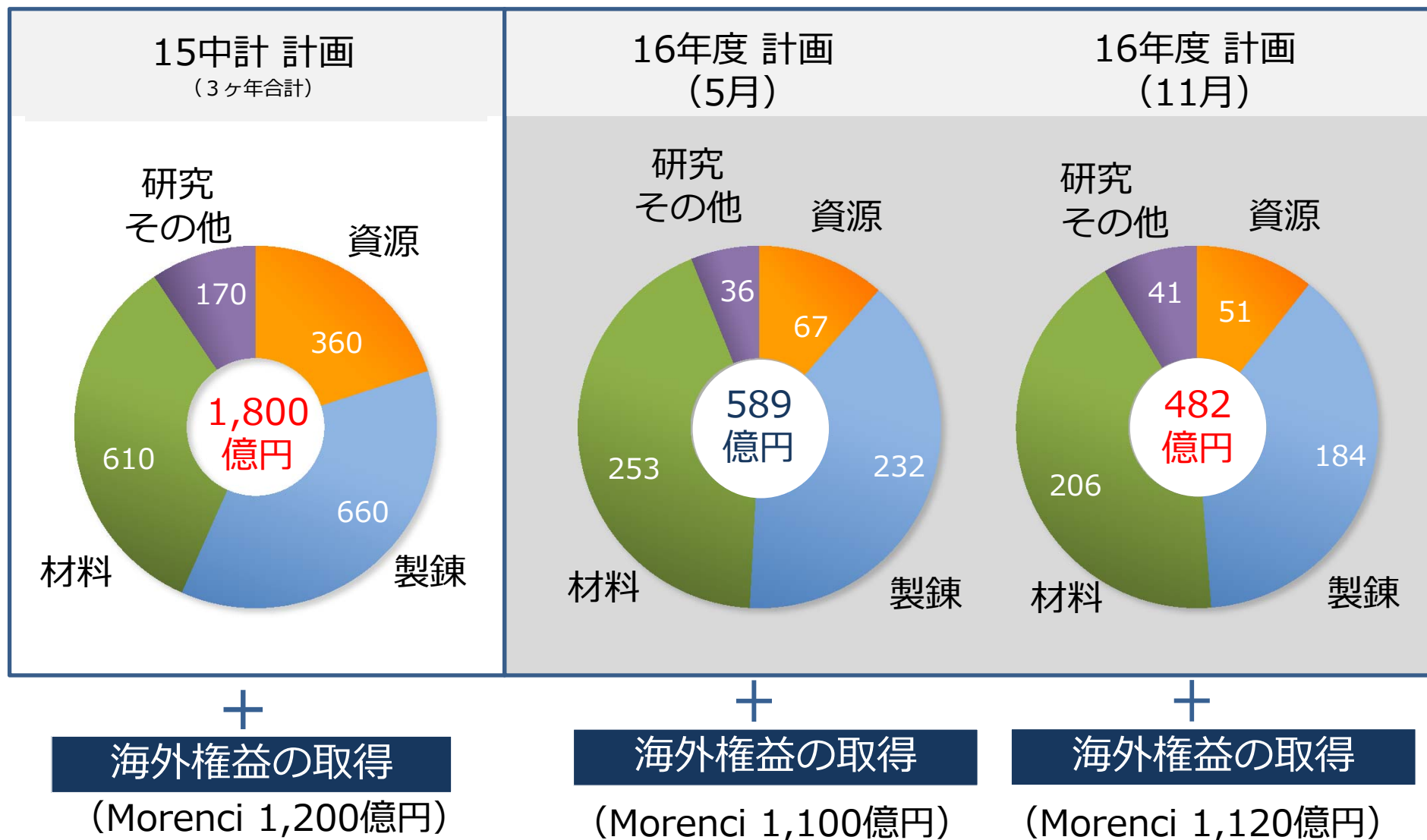
2) セグメント利益推移



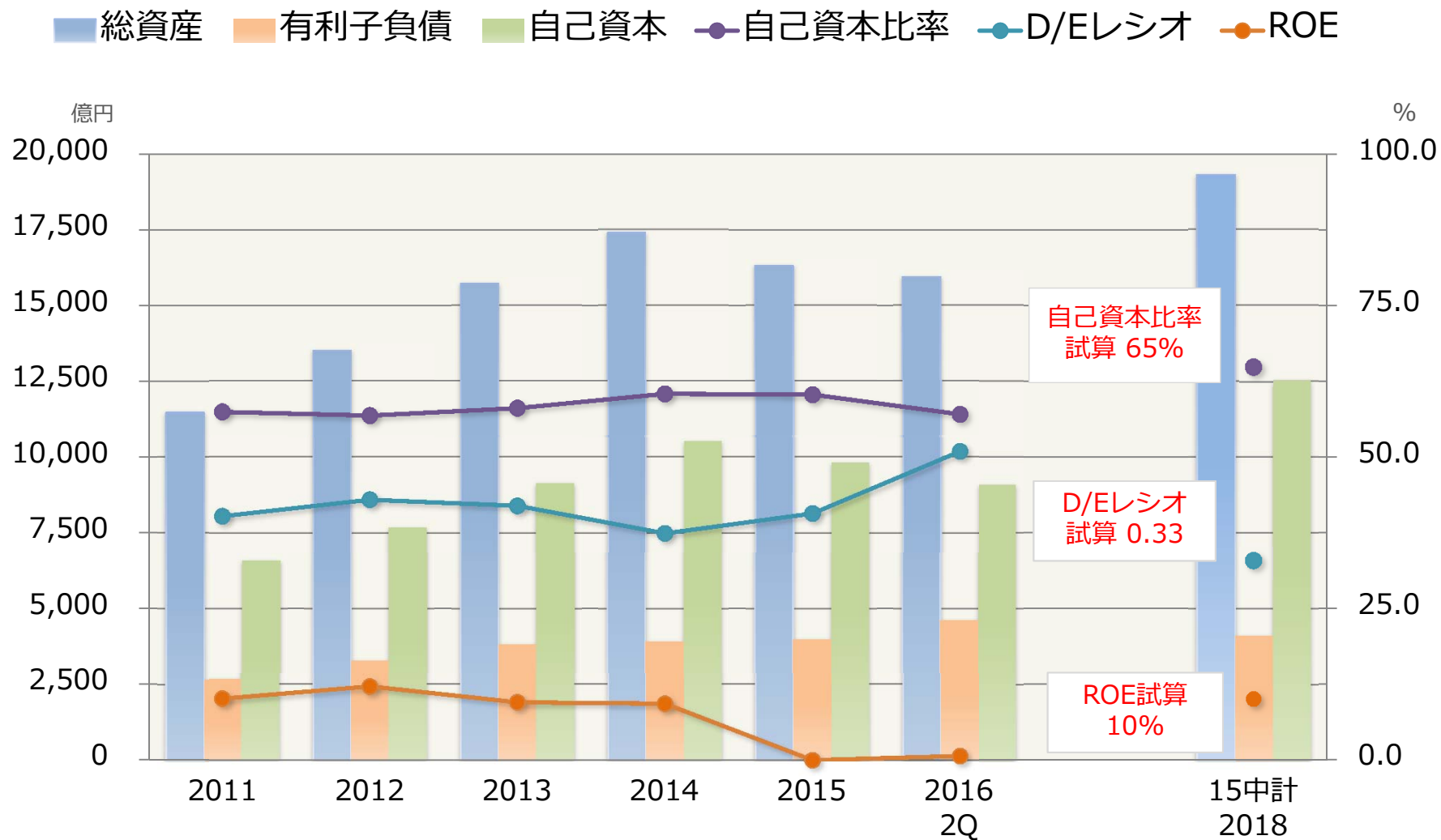
		2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016 予想	15中計 2018
セグメント利益	資源	704	806	652	691	538	-443	190	660
	製錬	495	256	339	291	813	253	110	800
	材料	54	-3	38	111	129	60	100	200
	その他	23	34	16	16	-1	-8	-10	-20
調整額		-39	-5	105	35	263	10	-60	60
経常利益計		1,237	1,088	1,150	1,144	1,742	-128	330	1,700

3) 投資計画

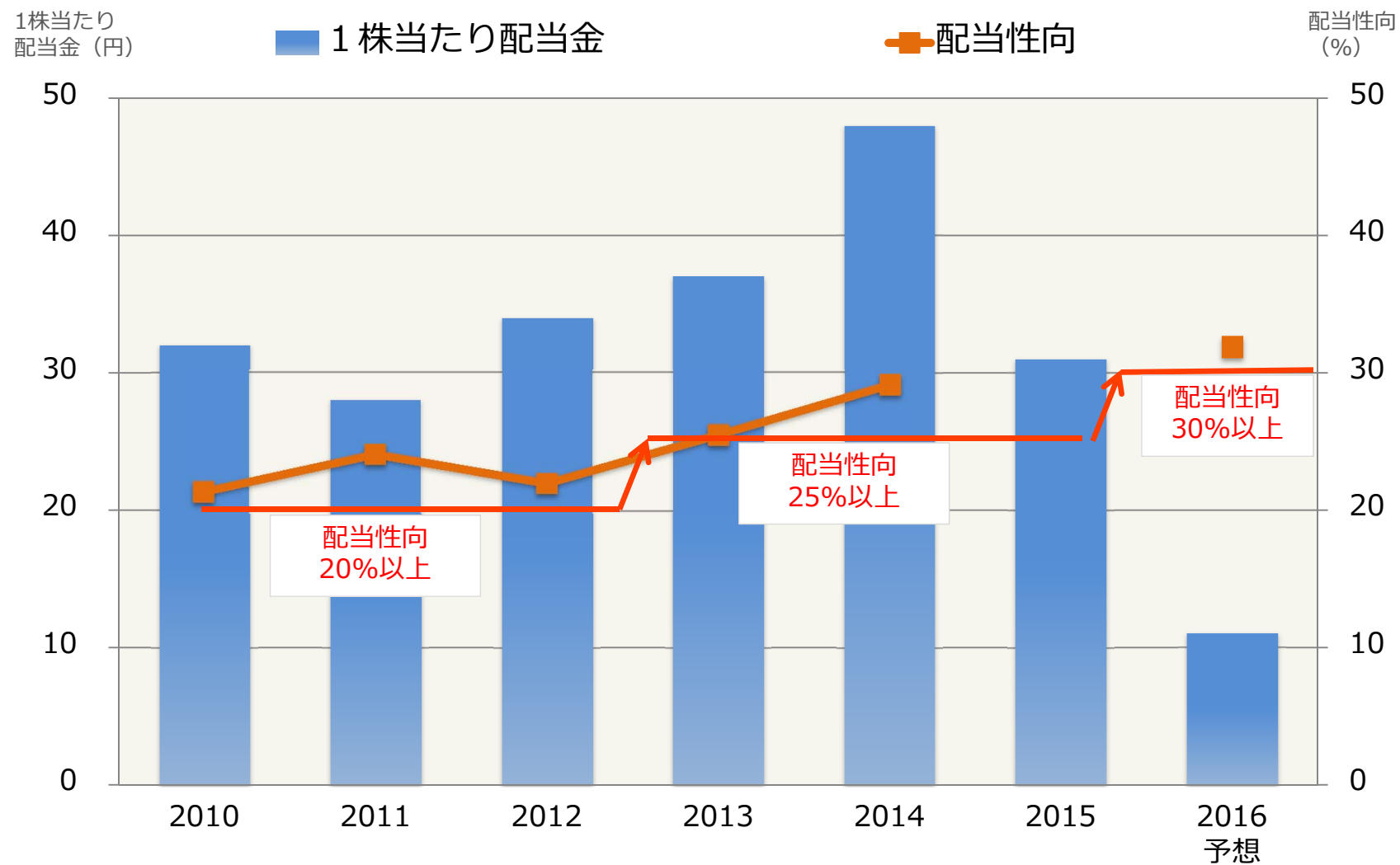
億円



4) 財務戦略 健全な財務体質の維持



5) 配当推移



Ⅲ. 15中計戦略の進捗と推進

I

経営課題・将来市場への対応

II

業績推移・資産内容

III

15中計戦略の進捗と推進

IV

事業を取り巻く環境

V

業績ハイライト/資料編

1) 資源 ①Cu 開発案件の完成 Sierra Gorda

Sierra Gorda 鉱山 (チリ)

権益比率

KGHM	55%
SMM	31.5%
住友商事	13.5%



2016年度進捗

生産量

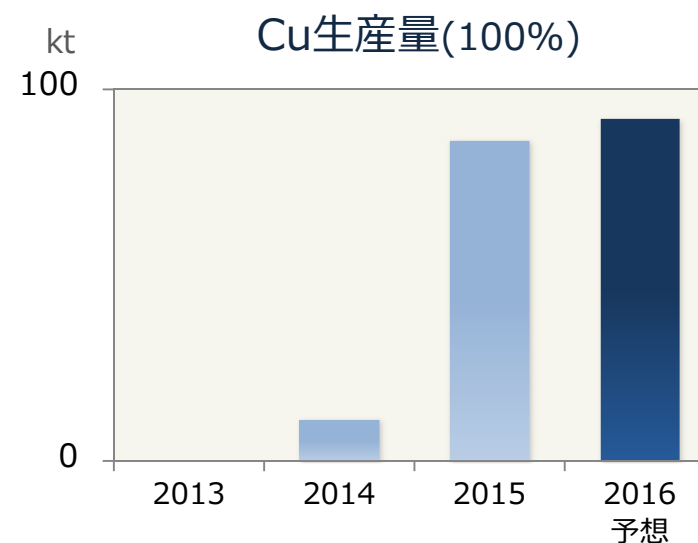
2015年度 86千t → 2016年度 92千t (予想)

コスト削減

外注費用の削減などを中心に、大幅なコスト削減を実施
年間目標100億円の削減、コストミニマム操業へ
(当社持分法ベース45%相当、当社見込み)

⇒ 足元、持分法損益としては5月予想並みで推移

キャッシュニュートラルに向けた体制を早期に確立



1) 資源 ②Cu 既存鉱山の安定した運営 ～Morenci・Cerro Verde～

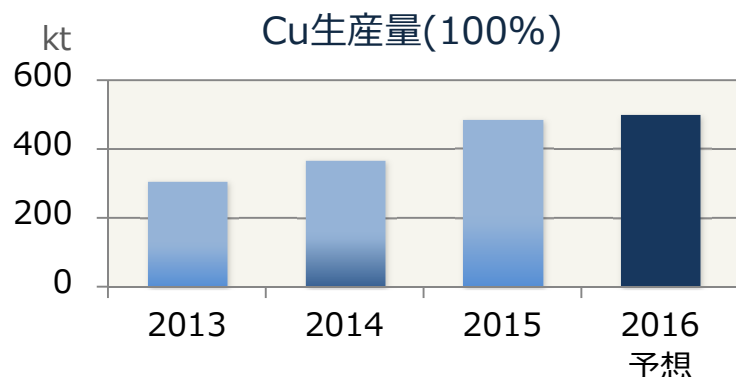
Morenci鉱山 (米国・アリゾナ州)

権益比率

FCX	72%
SMM	25%
住友商事	3%



- ・ 5/31 権益13% 追加取得完了
- ・ 2015年度 483千t → 2016年度 497千t (予想)
- ・ 削減施策による大幅なコストダウンを見込む



Cerro Verde鉱山 (ペルー)

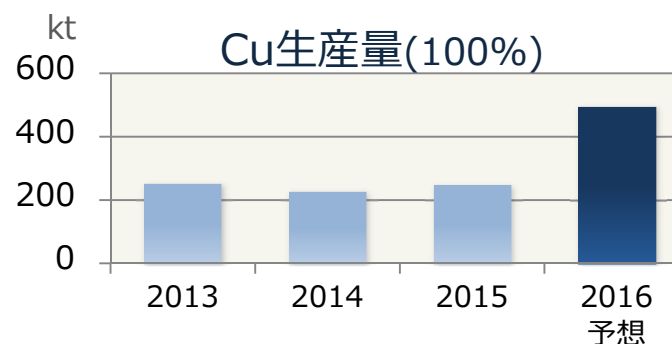
権益比率

FCX	53.56%
SMM	16.80%
住友商事	4.20%
その他	25.44%



- ・ 拡張PJ 2016年3月 フル操業体制へ移行
- ・ 2015年度247千t → 2016年度 493千t (予想)
- ・ 増産効果やコスト削減施策により、

約+60億円の利益貢献を見込む



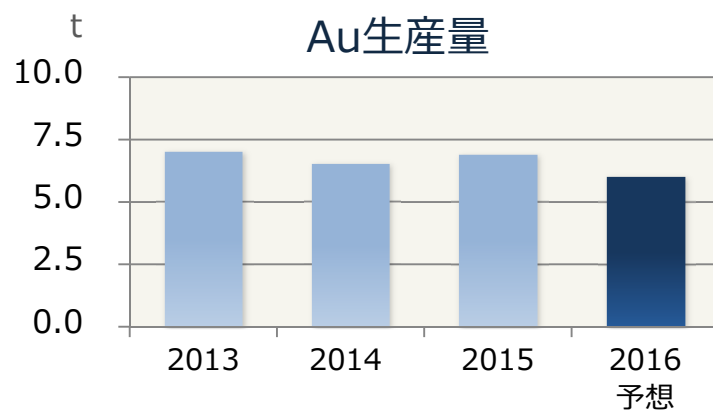
1) 資源 ③Au 既存鉱山の安定した運営 ～菱刈・Pogo～

菱刈鉱山 (鹿児島県)

権益比率 SMM 100%



- ・ 2016年度の年間計画 (6t) 達成見込み
- ・ 下部鉱体開発 順調に進捗
- ・ 2015年末 埋蔵量 169t (JIS基準)

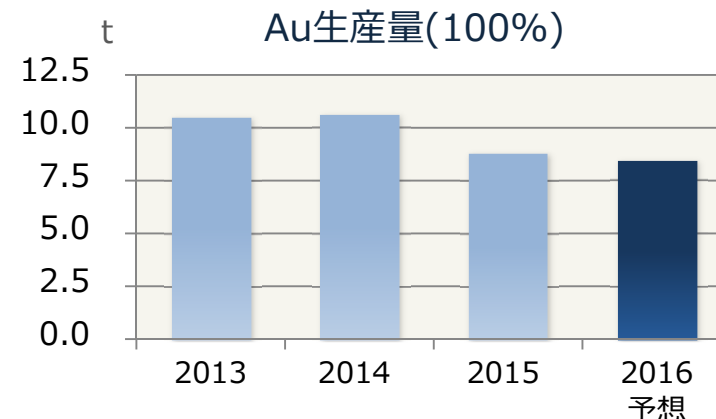


Pogo 金鉱山 (米国・アラスカ州)

権益比率 SMM 85%
住友商事 15%



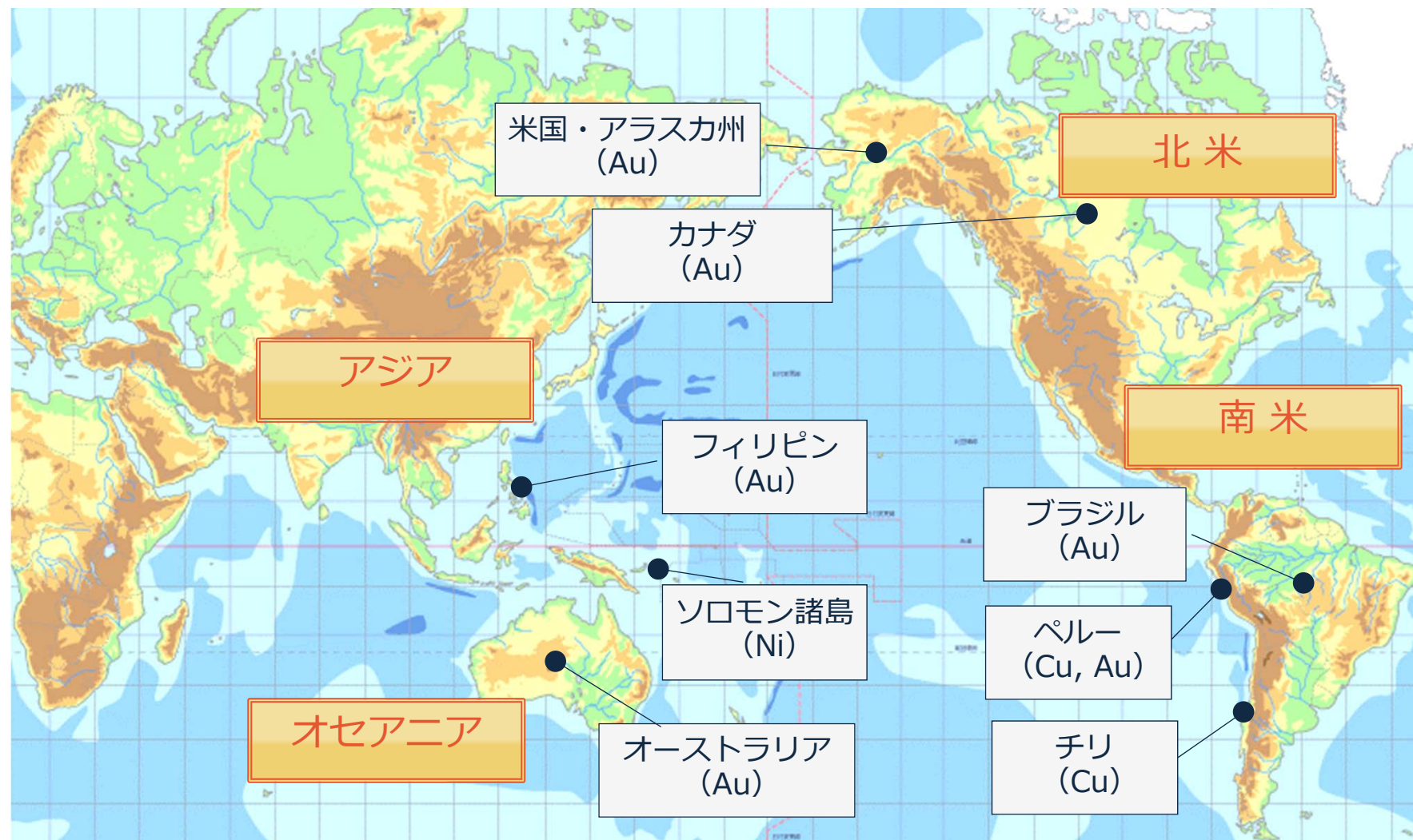
- ・ 2016年度は鉱石品位・実収率の低下による生産量減
- ・ 2015年末 埋蔵量 Reserve 62t
Resource 83t (Canada基準)



1) 資源 ④自社探鉱の推進

探鉱計画

16年度は金案件を重点的に推進



1) 資源 ⑤新規権益獲得への方針

Auをメインターゲットに（継続）

将来収益に寄与する案件を厳選

初期探鉱だけでなくPFS/FS段階の案件も検討

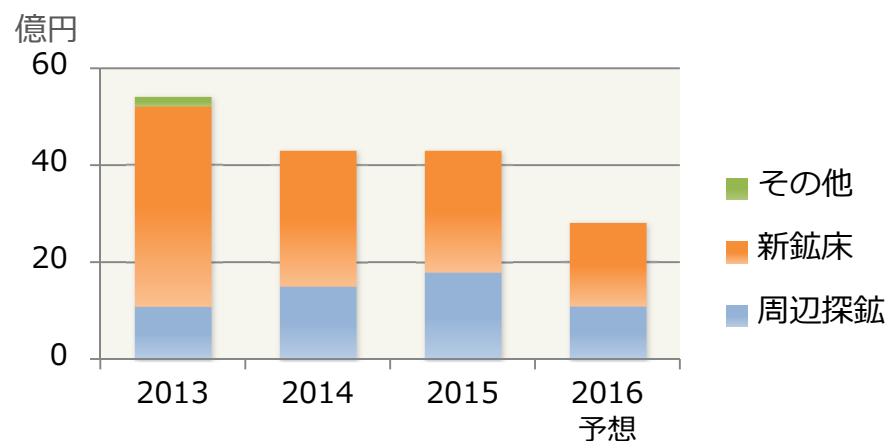
プロジェクト所有者への積極的なアプローチとデータ入手・解析

メジャー & JV相手との連携強化

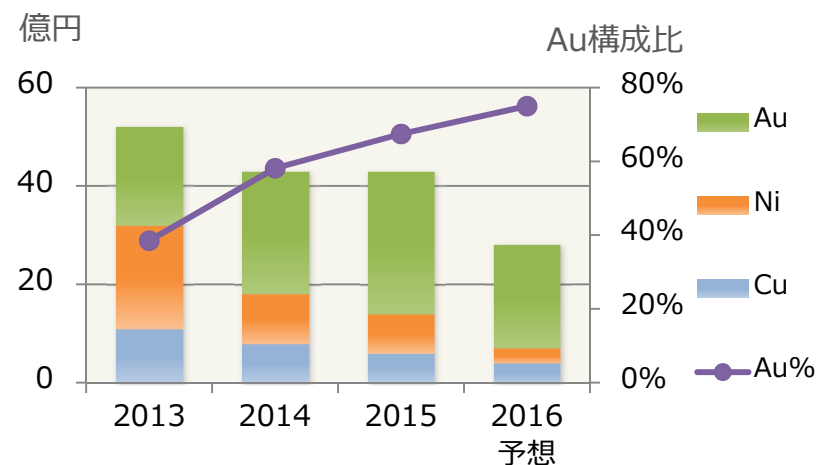
JV参入だけでなくM & Aも視野に入れて検討

探鉱費

ステージ別



金属別



2) 製錬 ①銅製錬 競争力強化(1)

東予工場 生産計画

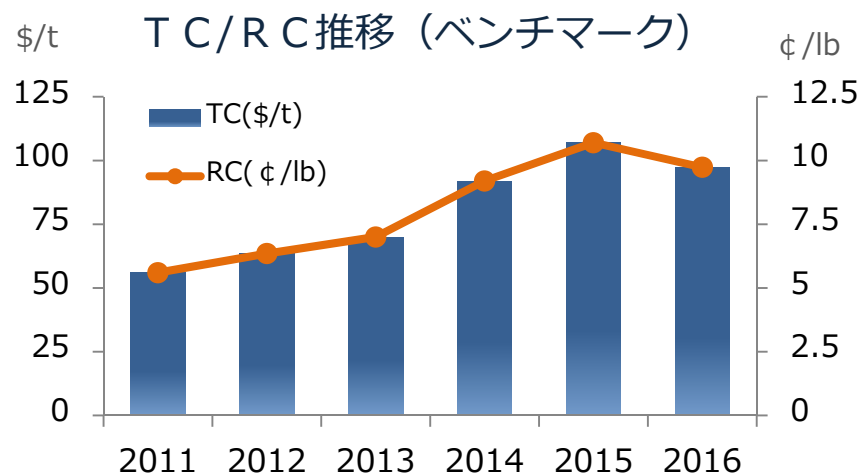
安定操業による
45万トン体制のフル生産により
TC/RC上昇メリットを享受



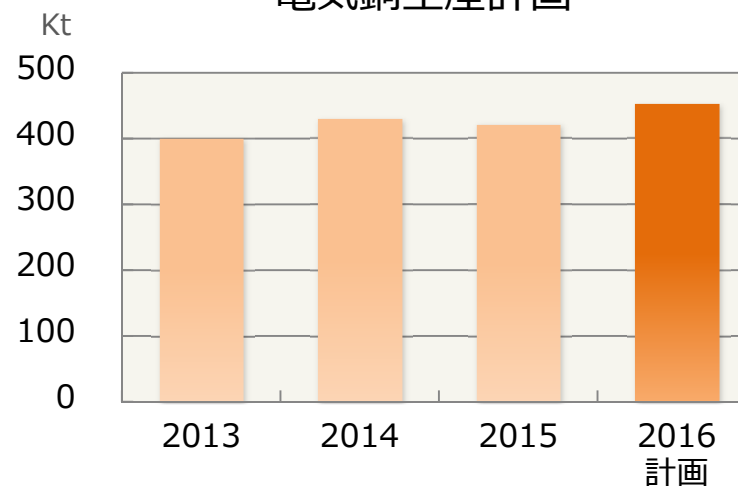
生産量

2016年度計画 445千t

2016年度予想 451千t **過去最高の生産量**を達成見込み



電気銅生産計画



2) 製錬 ①銅製錬 競争力強化(2)

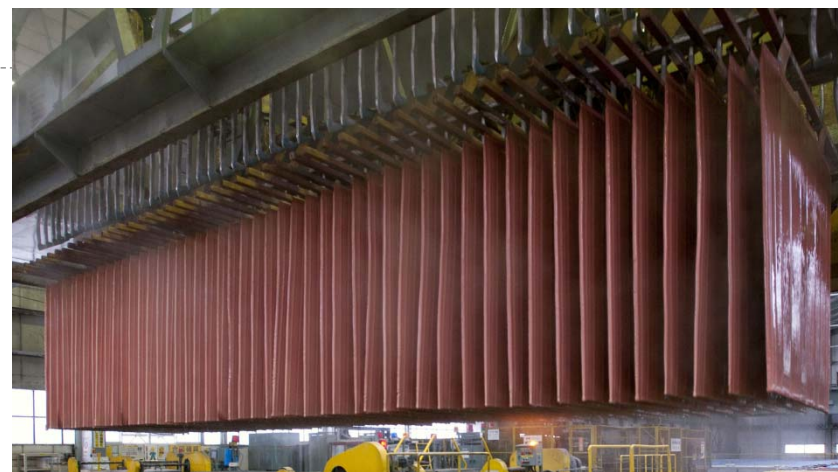
東予工場 コスト競争力の強化

操業技術のさらなる改善
不純物対応力強化
二次原料集荷の強化

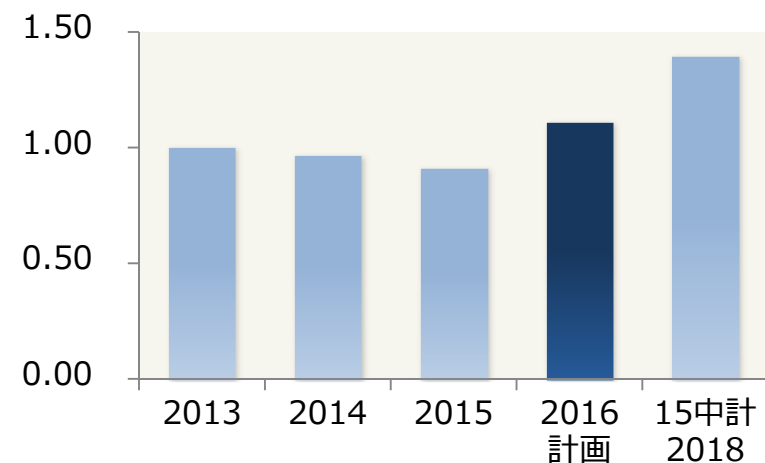


足元の二次原料
集荷状況は順調

有利原料処理と
コスト削減により
世界トップの
銅製錬所として
収益性を
さらに向上

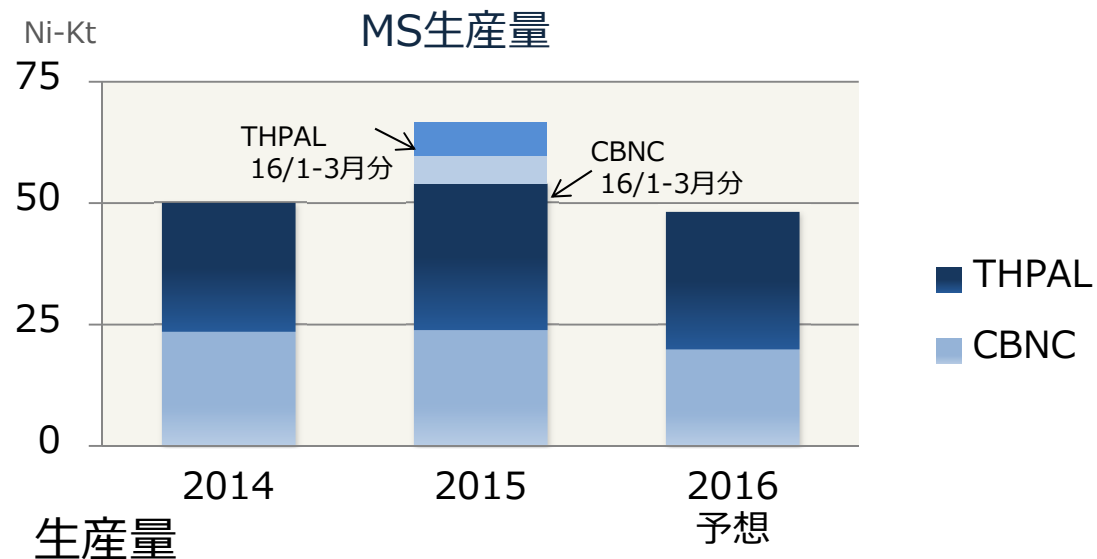


Index
2013=1.0
二次原料増集荷の強化



2) 製錬 ②THPAL・CBNC H P A L 60千トン体制

CBNC・THPALの安定操業



2016年度 CBNC 24千t (計画) → 20千t (予想)

THPAL 26千t (計画) → 28千t (予想)

足元、鉱石中ニッケル品位の低下傾向は続いているが
今後品位の上昇に努めていく



2) 製錬 ③フェロニッケル 最適生産体制

(株)日向製錬所 フェロニッケル生産計画

インドネシア新鉱業法施行により
鉱石単価 大幅に上昇
鉱石品位低下により処理量が増加

2015年度4Q～
2キルン→1電気炉操業へ移行

コストミニマムとなる水準の生産量に
安定した操業技術により収益確保をめざす

生産量

2015年度 20千t

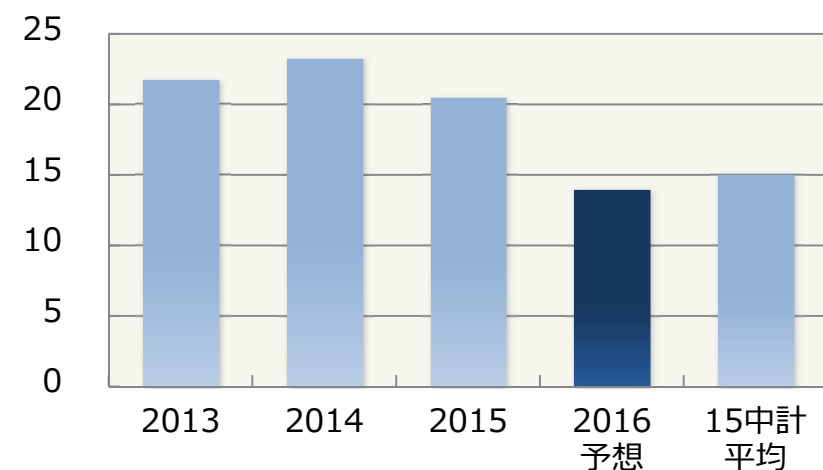
2016年度 14千t (計画) →14千t (予想)

今年度は計画並みの生産となる見込み



Ni-Kt

Fe-Ni 生産量



2) 製錬 ④15中計の戦略課題

スカンジウム

タガニートでHPALの工程から中間製品を生産
播磨事業所で最終製品（酸化スカンジウム）を生産

2018年 商業生産開始予定 年産7.5t

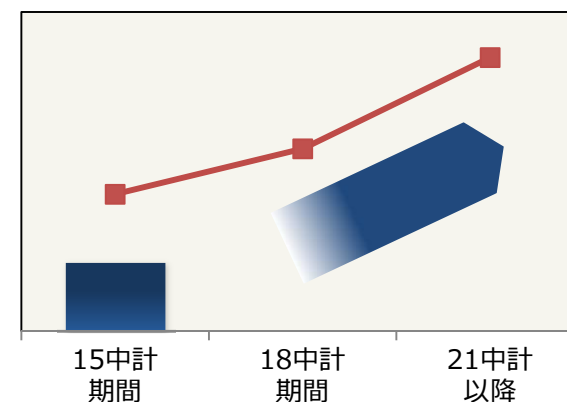
投資額
40億円

米国の大手企業と長期販売契約を締結

現在の世界需要規模は10～15t/年（酸化スカンジウム換算）

生産計画

■ 当社生産量 ■ 世界需要（当社推定）



Pomalaa Project (インドネシア)



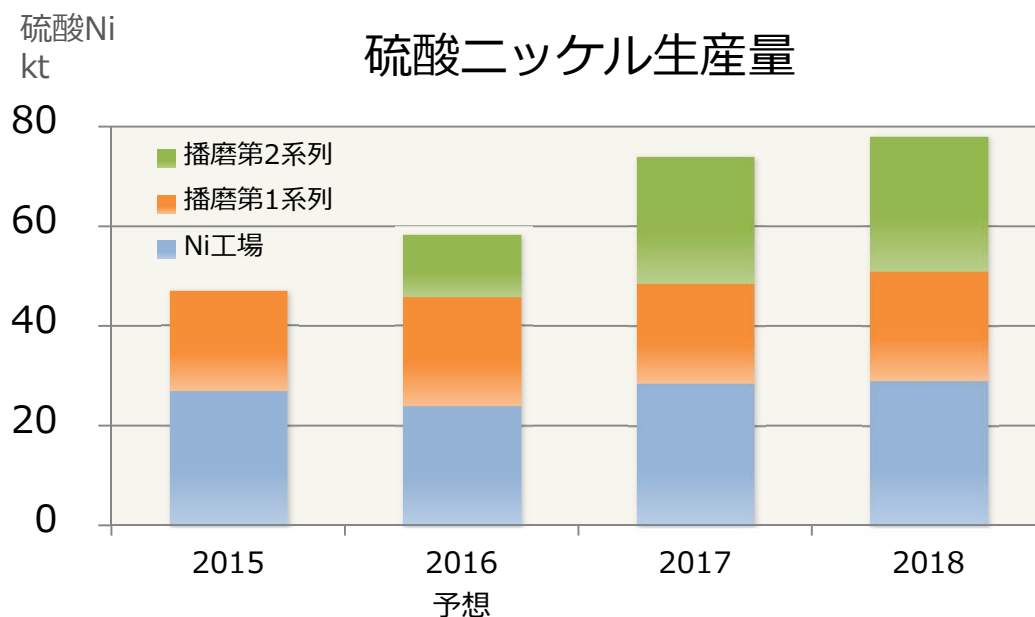
PT Vale Indonesiaが鉱業権を保有
精錬所建設の可否に関するF/Sを実施

2015年 プラント位置の検討
2016年 F/Sのための事前調査中
2017年 投資判断に向けたF/Sを開始予定

事業
開始時期
・投資額
は未定

2) 製錬 ⑤硫酸ニッケル事業拡大

播磨事業所 硫酸ニッケル増産



2016年

播磨第2系列 増産起業
上期に完工、下期からフル稼働予定
硫酸ニッケル生産量：34千t（予想）
[このほかニッケル工場で24千t（予想）]

2017年

播磨49千t/年体制に
向けた投資実行

ニッケル酸リチウム
(NCA)
前工程を新設

2018年

播磨49千 t /年体制
を確立

(いずれも硫酸ニッケル量)

3) 材料 ①電池材料 (1)

電池材料をめぐる全体的な環境の変化

エコカー市場の急速な広がり と ニッケル系正極材採用の拡大
自動車-電池メーカーのサプライチェーンに変化
コバルト使用量拡大に伴う安定供給の重要性

環境規制の強化

E U CO2規制 →PHEVの伸びが期待される
カリフォルニア Zero Emission Vehicle規制
その他各国で環境規制は強化



自動車への電池搭載の
急速な増加

当社電池材料（正極材）の採用実績

- ・ 水酸化ニッケル
ハイブリッド車二次電池に使用
- ・ 三元系
新型ハイブリッド車のリチウムイオン電池に採用



写真提供：トヨタ自動車株式会社

3) 材料 ①電池材料 (2)

当社の戦略

当社電池材料は
ハイブリット車・電気自動車双方に採用

当社の強み

原料に近い状態から高付加価値製品まで
さまざまな製品形態で供給可能
顧客ニーズに最新の粉体技術で応える
ニッケル・コバルトの安定供給体制

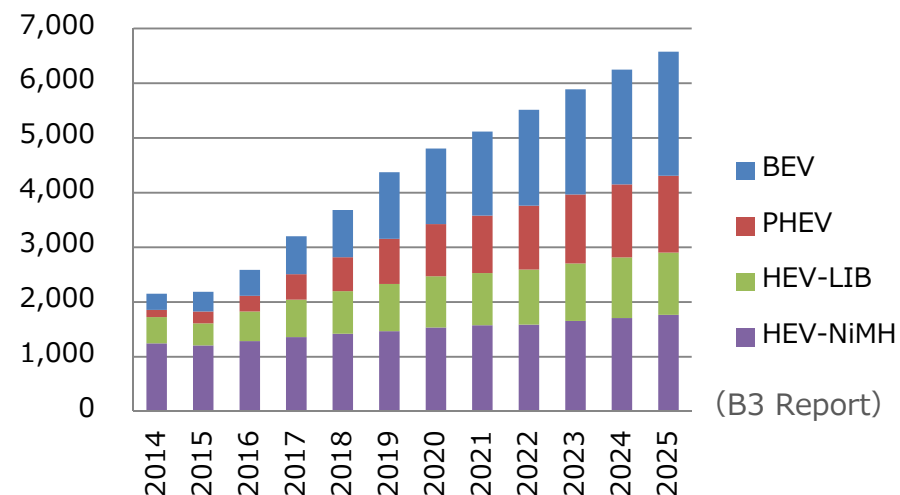
2016年度の進捗

磯浦工場・住鉱エナジーマテリアル檜葉工場
1,850t/月体制への増産投資は計画通り
顧客認定が進み、両拠点にて商業生産を開始



下期からフル稼働

(千台)
xEV(電気自動車・ハイブリット車)市場予測



(B3 Report)

ニッケル酸リチウム (NCA) のさらなる増産

パナソニック株式会社の生産拡大に対応
3,550t/月体制へ向け 180億円の追加投資を決定 (2018年1月 完工予定)

3) 材料 ②結晶 (LT/LN) (1)

デバイスの市場見通し

SAWフィルター

スマートフォンの通信大容量化
→使用周波数帯（バンド）数の増加

周波数帯の増加に伴い
SAWフィルターの搭載数は
大幅に増加

スマートフォン需要の伸び

先進国を中心に減速も見込まれるも
中国新興メーカーによる、
新興国市場でのシェア拡大
スマートフォン出荷台数は全体的には微増

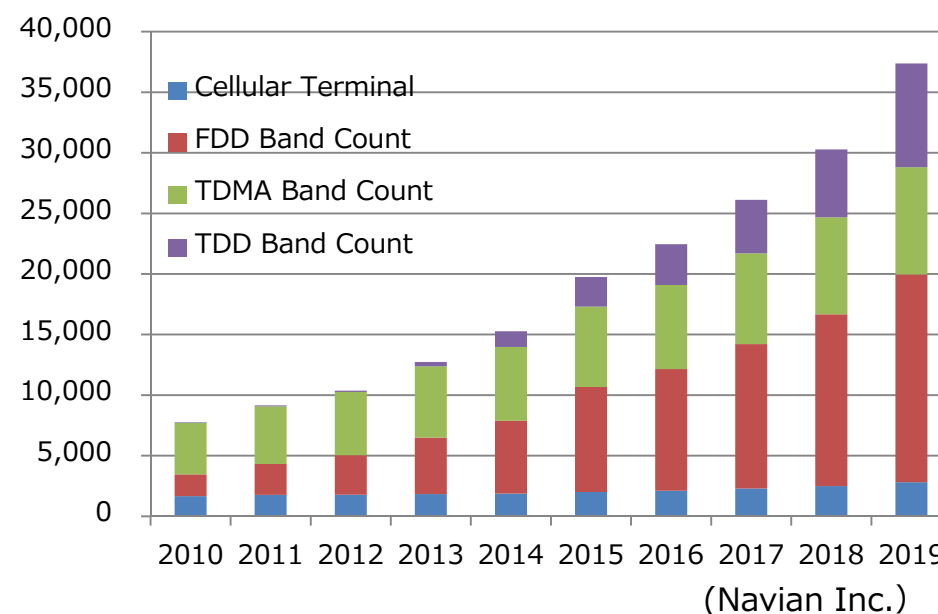


SAWフィルター需要
引き続き増加

周波数帯（バンド）は増加

(Million units/bands)

総バンド数推移



3) 材料 ②結晶 (LT/LN) (2)

結晶材料 増産体制の構築

SAWフィルター向けLT/LN結晶基板

2014年12月

12万枚/月→21万枚/月への増強を決定

2015年3月

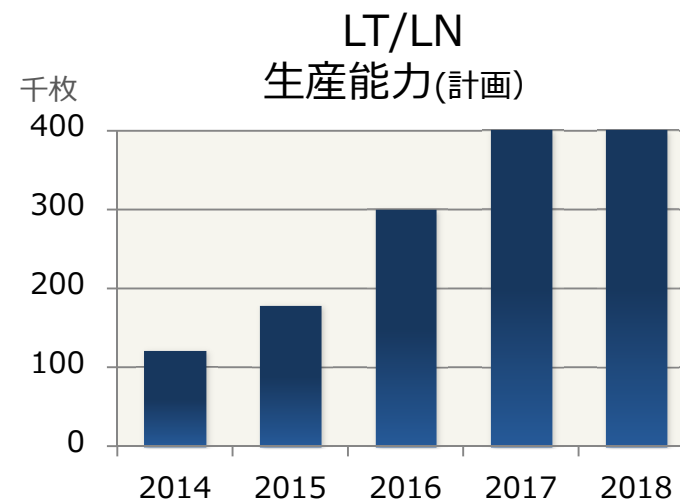
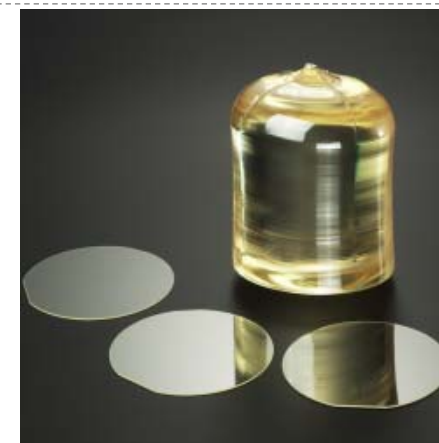
21万枚→30万枚/月への増強を決定
世界トップシェアへ

2016年10月現在

30万枚/月体制を5月に達成

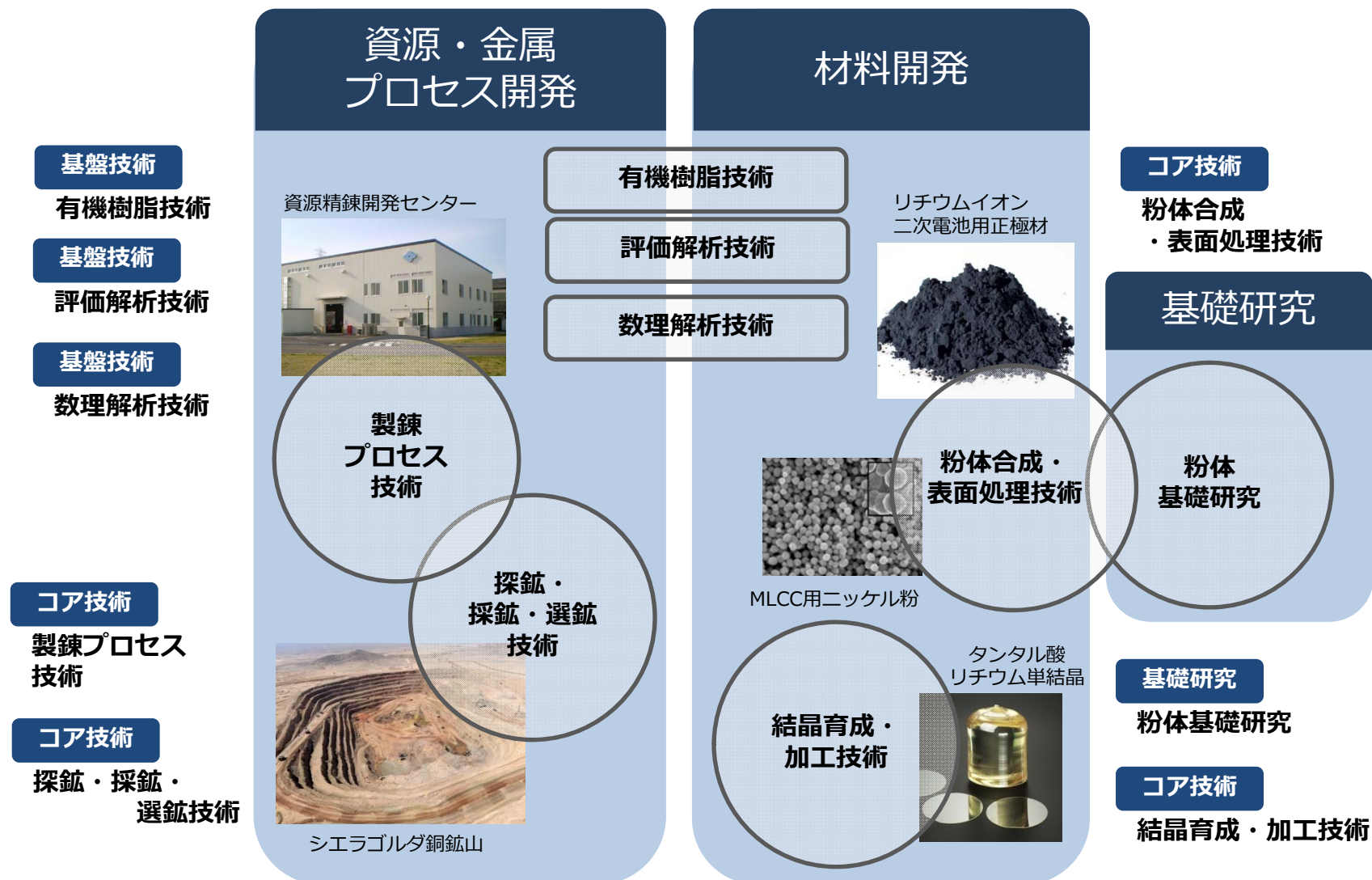
2016年10月

住鋁国富電子(株) 新工場棟建設が完成
2017年9月 40万枚/月体制完成予定



4) 研究開発

成長戦略分野に研究開発を集中



5) コストカットの進捗

15中計 コストカット施策

コストカット 100億円/年の達成

2015年度を基準として、さらに100億円/年のカットを目標

- ✓ 生産性向上
- ✓ 安価な資材への切り替え
- ✓ 固定費の厳選

2016年度2Qの進捗

2Q実績 80億円以上
資材価格や運搬価格の好転もあり

引き続き各部門でコスト削減の取り組みを継続

IV. 事業を取り巻く環境

I

経営課題・将来市場への対応

II

業績推移・資産内容

III

15中計戦略の進捗と推進

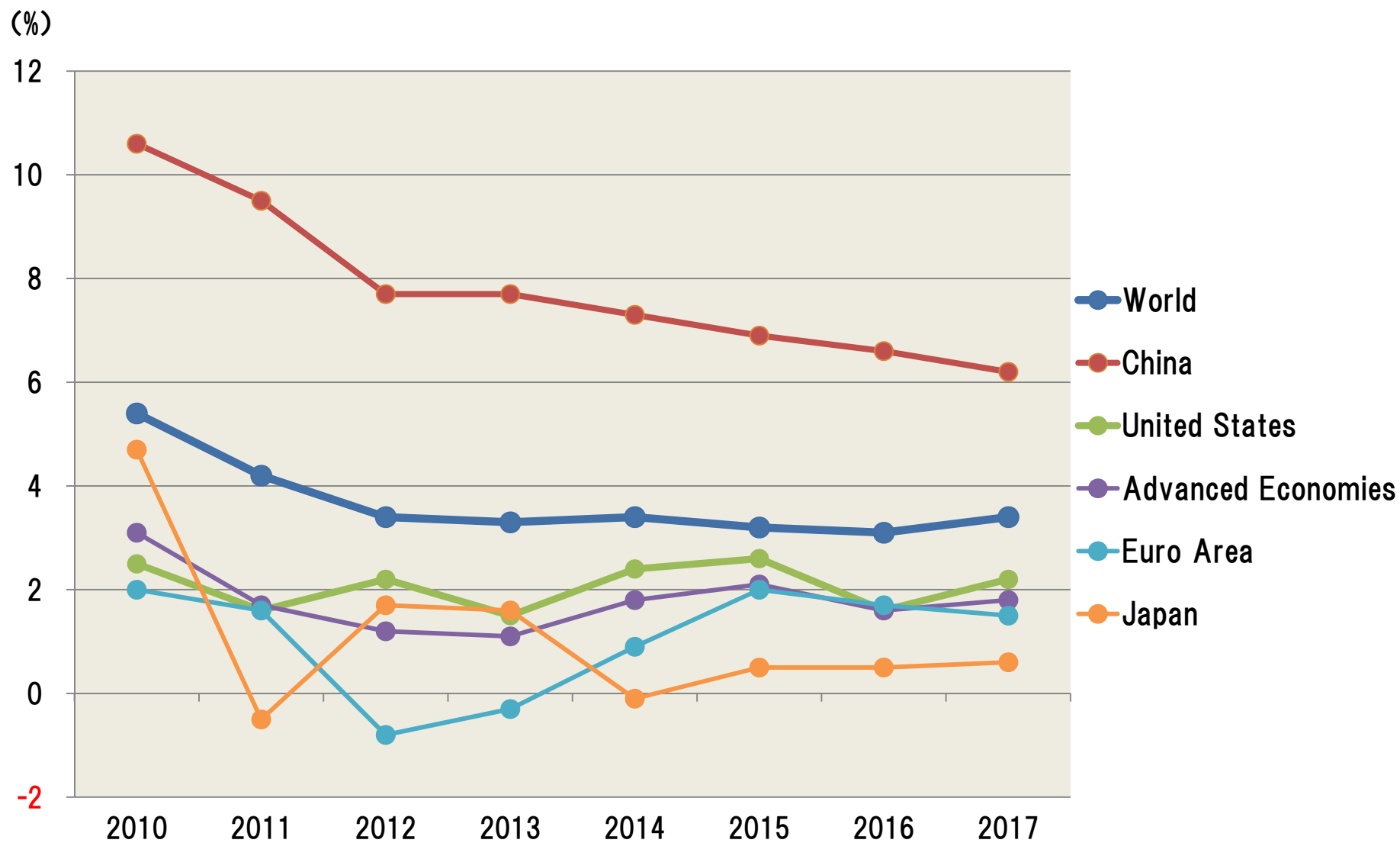
IV

事業を取り巻く環境

V

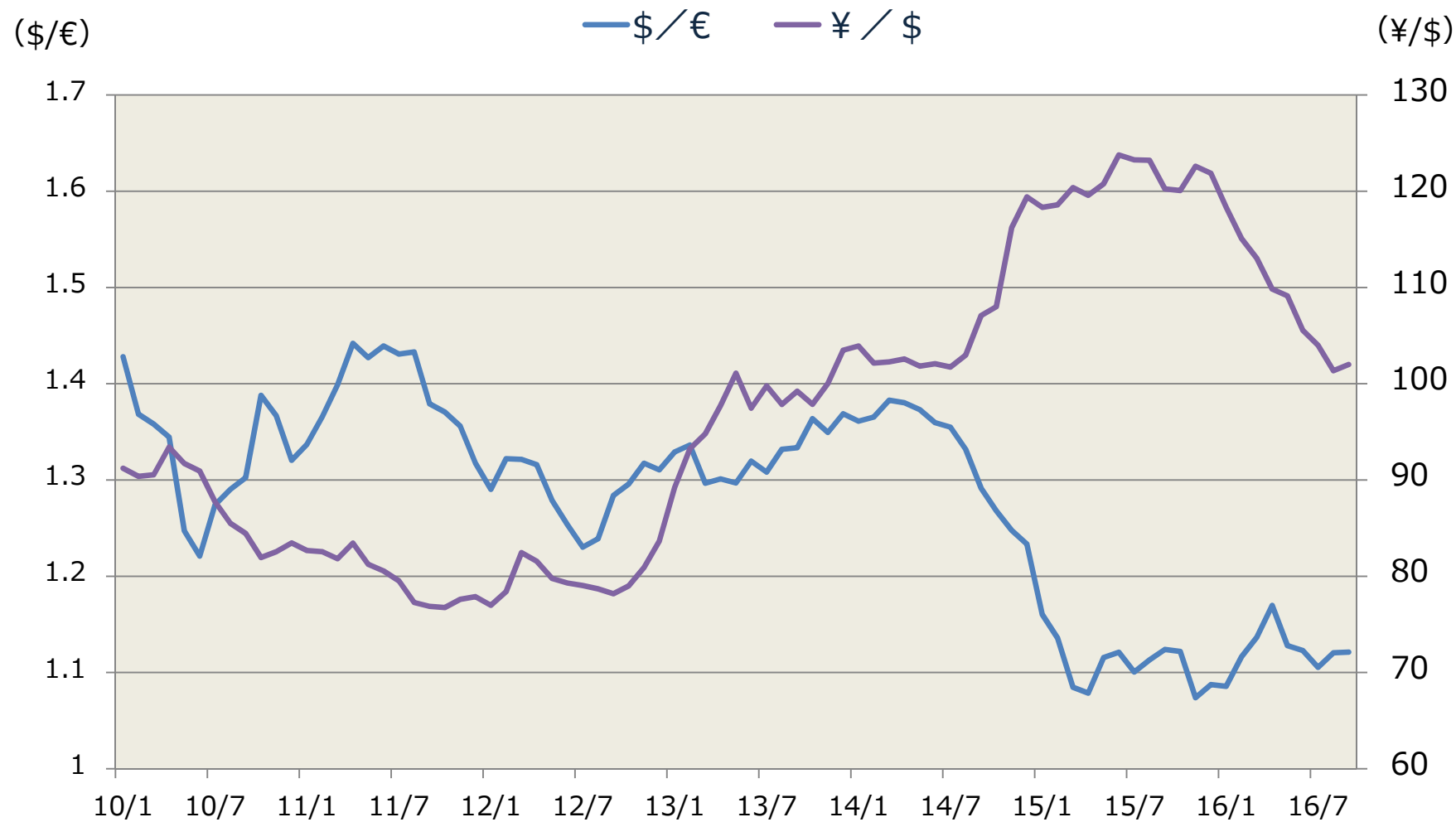
業績ハイライト/資料編

1) 全般情勢 ～世界のGDP成長率

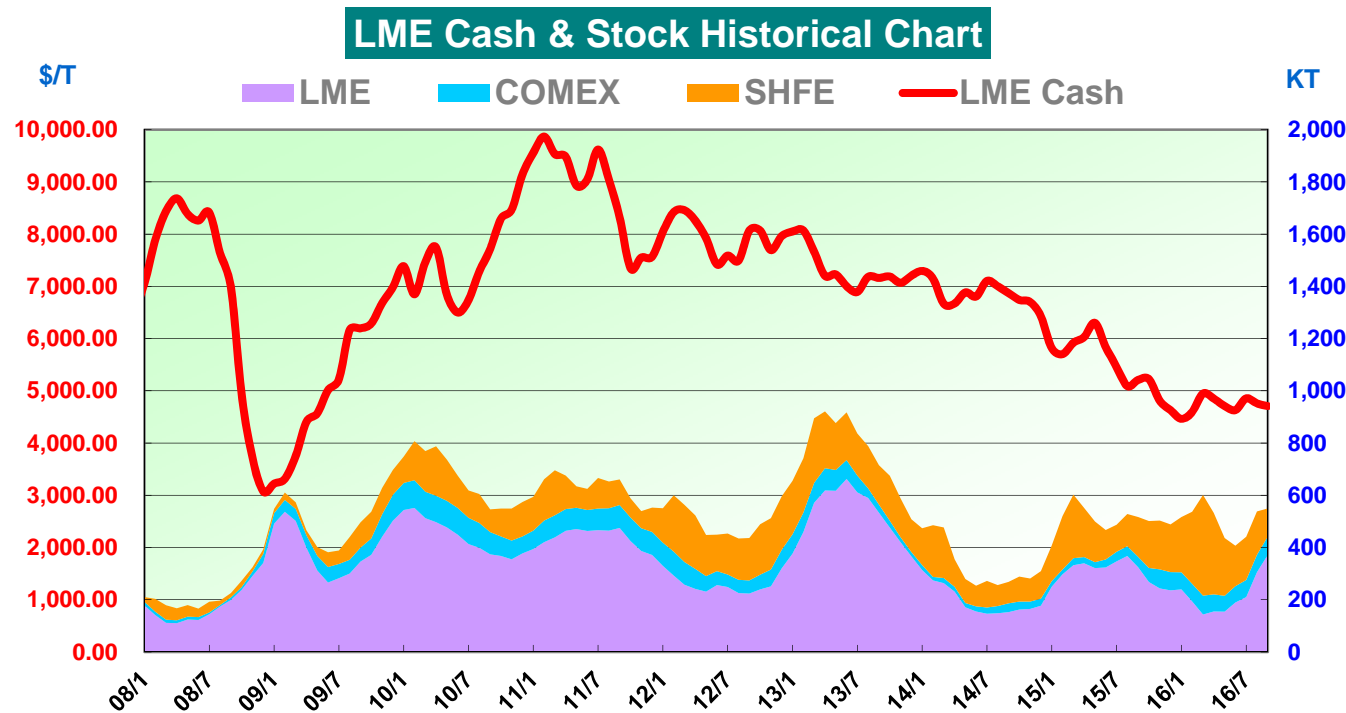


(IMF 2016年10月予測)

2) 為替レート推移



3) Cu相場推移・需給バランス予測

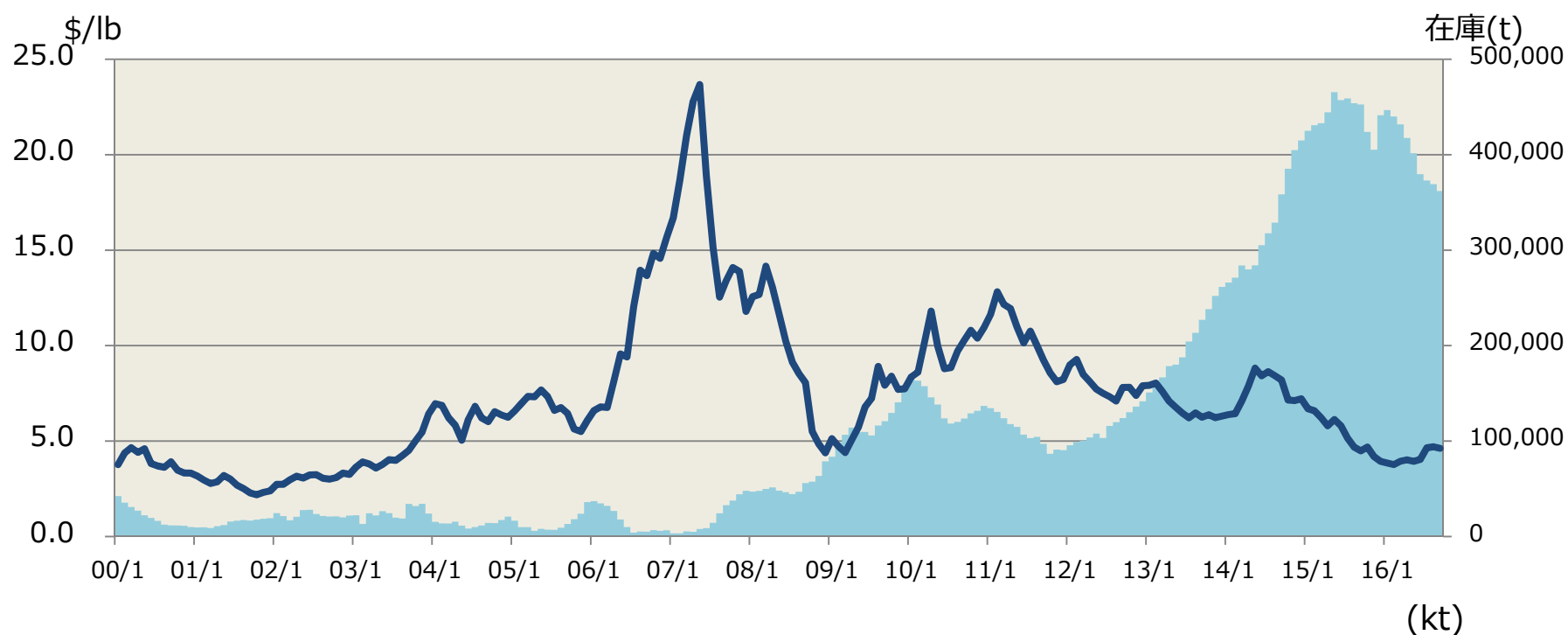


[ICSG予測2016/10]

(kt)

	2015	2016	2017
Production	22,883	23,383	23,791
Usage	23,035	23,391	23,628
Balance	-152	-8	163

4) Ni相場推移・需給バランス予測

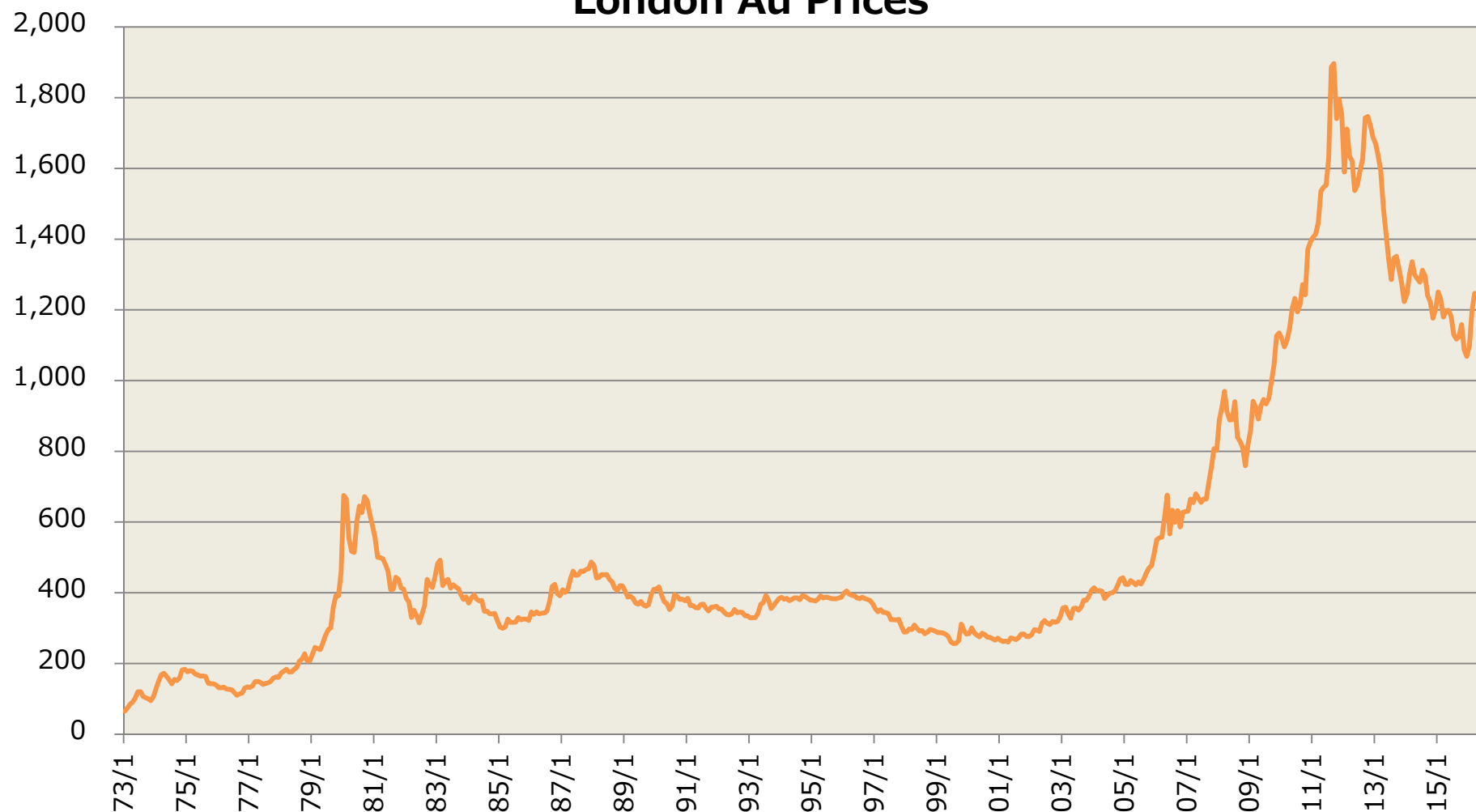


	INSG予測 2016/10			SMM予測 2016/10		
	2015	2016	2017	2015	2016	2017
Production	1,973	1,934	2,047	1,967	1,922	2,005
Usage	1,881	2,001	2,113	1,893	1,985	2,059
Balance	92	-67	-66	+74	-63	-54

5) Au相場推移

(\$/Toz)

London Au Prices



V. 業績ハイライト/資料編

I

経営課題・将来市場への対応

II

業績推移・資産内容

III

15中計戦略の進捗と推進

IV

事業を取り巻く環境

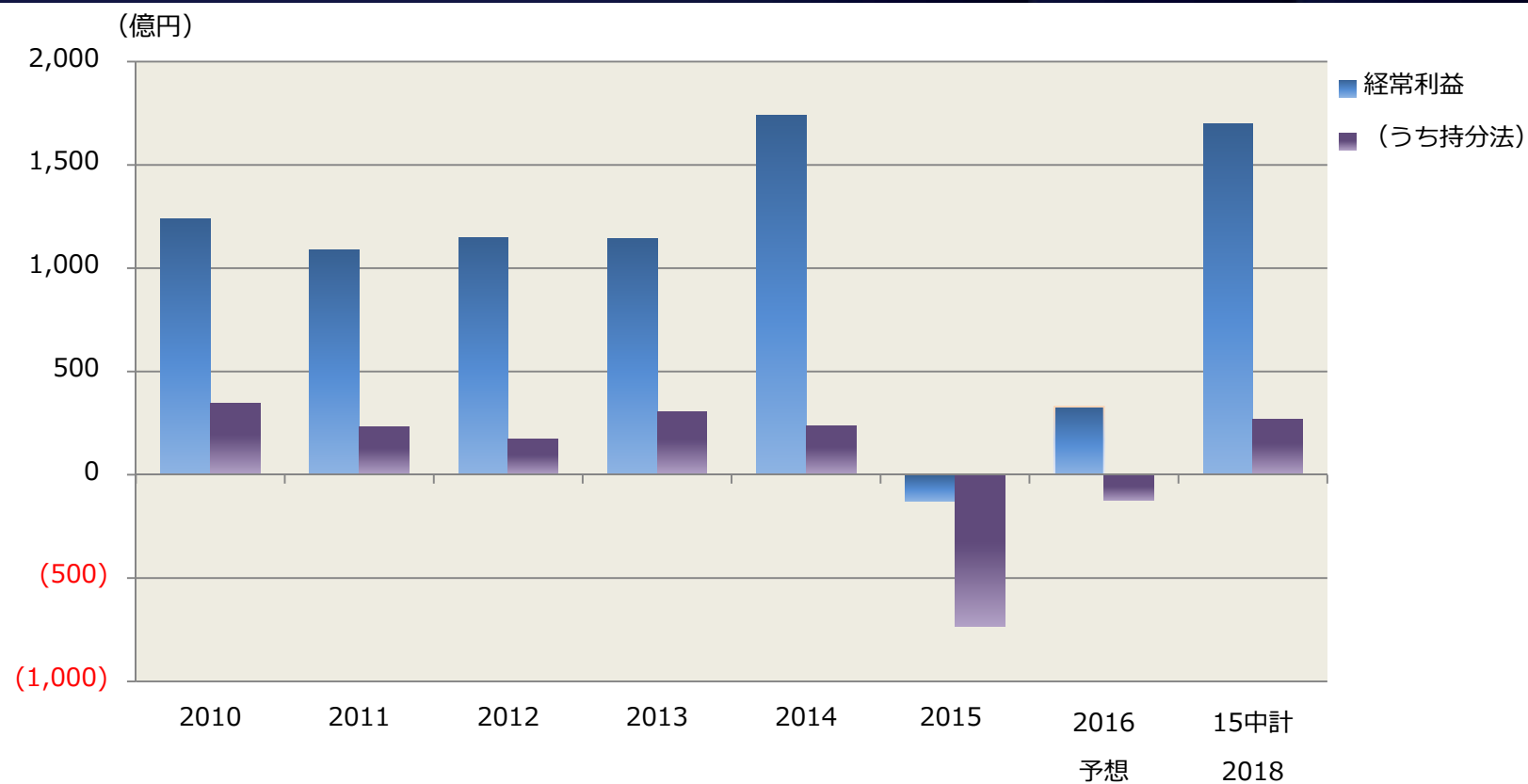
V

業績ハイライト/資料編

1) 業績推移

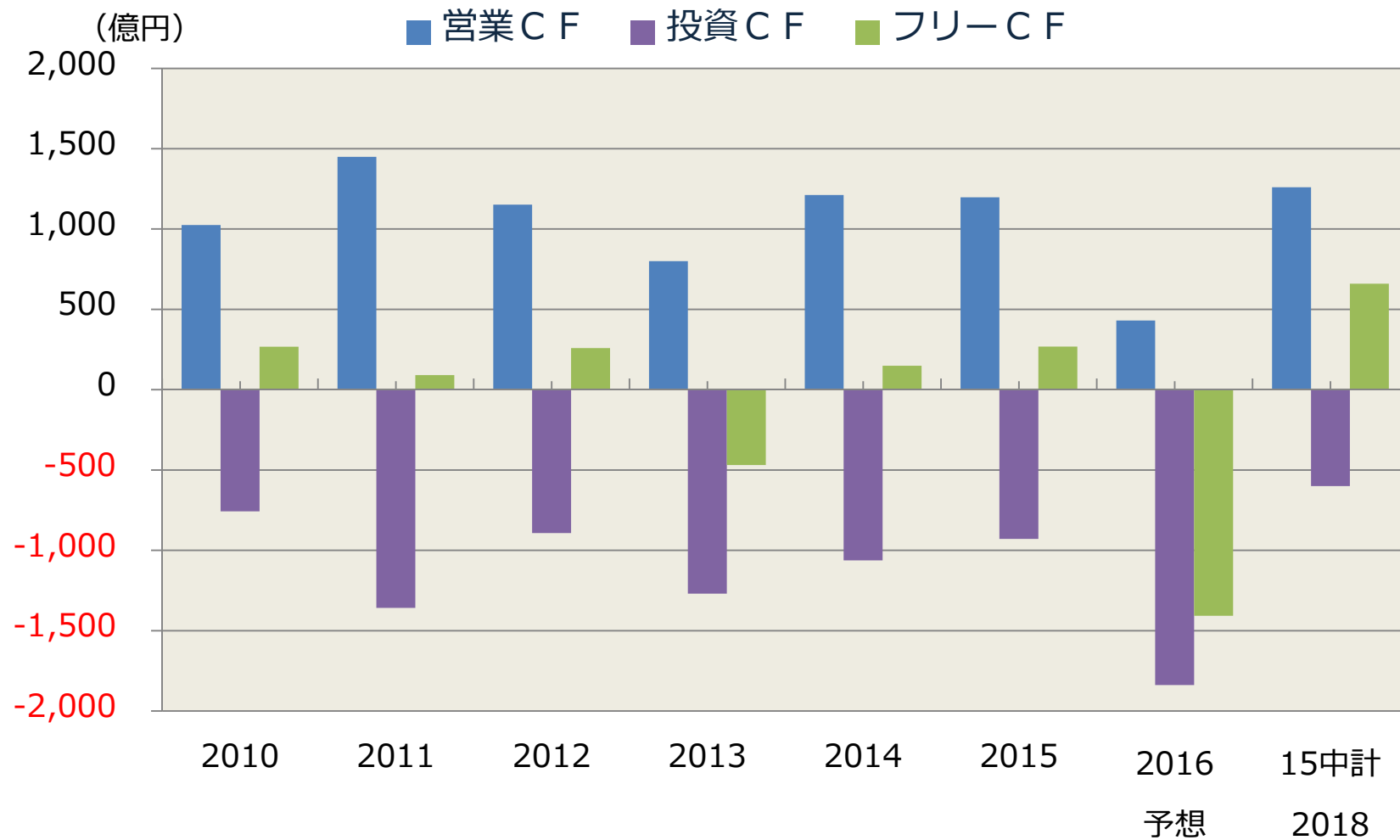
	2011	2012	2013	2014	2015	2016 予想	15中計 2018試算
売上高 (億円)	8,479	8,085	8,305	9,213	8,554	7,140	10,600
営業利益 (億円)	886	958	754	1,258	597	480	1,400
経常損益 (億円)	1,088	1,150	1,144	1,742	-128	330	1,700
内 持分法投資損益 (億円)	232	171	298	239	-732	-125	270
親会社株主に帰属する 当期純利益(億円)	653	866	803	911	-3	190	1,200
ROA (%)	5.9	6.9	5.5	5.5	-0.0	-	6
ROE (%)	10.1	12.1	9.5	9.3	-0.0	-	10
1株あたり配当金 (円)	28.0	34.0	37.0	48.0	31.0	11.0	N/A
銅 (\$/T)	8,485	7,855	7,104	6,554	5,215	4,726	6,000
ニッケル (\$/lb)	9.6	7.7	6.5	7.6	4.7	4.5	7.0
金 (\$/Toz)	1,646	1,654	1,327	1,248	1,150	1,273	1,150
為替 (¥/\$)	79.1	83.1	100.2	109.9	120.2	102.7	120.0

2) 経常利益・持分法投資損益



	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016 予想	15中計 2018
経常利益	1,238	1,088	1,150	1,144	1,742	-128	330	1,700
(うち持分法 投資損益)	348	232	171	298	239	-732	-125	270

3) キャッシュフロー推移



4) センシティブティ試算

単位：億円

要素	変動幅	2016年度試算 営業利益/経常利益
Cu	±100\$/t	14/28
Ni	±10 ¢ /lb	16/18
Au	±10\$/toz	5/5
円/\$	±1円/\$	7/5

(注) 円/\$ は国内の金属加工収入および海外換算為替差の合計

ご注意

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。

また、本資料に記載されている将来の予測等は説明会の時点で入手された情報に基づくものであり、市況、競合状況等、多くの不確実な要因の影響を受けます。

したがって、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願いいたします。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

本資料に関する著作権、商標権その他すべての知的財産権は、当社に帰属します。

住友金属鉱山株式会社